

令和4年度  
事業報告

社会福祉法人緑樹会

— 目 次 —

◆法人本部	01
◆総合福祉センター緑樹苑	
*介護老人福祉施設緑樹苑	
・介護老人福祉施設緑樹苑	10
・緑樹苑短期入所（ショートステイ）	18
・緑樹苑給食センター	22
*在宅サービスセンター	
・緑樹苑デイサービスセンター	29
・緑樹苑居宅サービス事業所（訪問介護・障害福祉）	39
・緑樹苑居宅介護支援事業所	46
・沖縄市地域包括支援センター西部北	54
・みどり学童クラブ	62
◆ケアハウスはいびすかす	70
◆ケアハウスていんさぐぬ花	80

## 法人本部 事業報告

### 1. 総括

感染対策委員会方針に沿って、感染対策委員会を隔週（必要時は都度）開催し、感染防止の方針、取組み・対応を協議した。法人施設内の感染拡大（クラスター）時には、当該施設職員の療養及び就業制限等によってサービス提供が困難となった為、各部署への支援協力を要請すると共に法人本部・事務局職員においても当該施設でのサポート対応を行った。また、法人 PCR 検査等の申請手続き及び各事業での実施管理・提出を行った。

令和 4 年度に創設された介護職員等ベースアップ支援加算取得に向けて、各部署の実施計画を取りまとめた処遇改善計画書の作成や光熱費等の価格高騰を受けた支援補助金についても法人で申請を行った。

県の指導監査の文書指摘については随意契約の決済時における複数見積書の未徴収や合理的な理由の記載漏れが指摘され、改善状況報告書を提出した。

今年度が最終年となったアクションプラン 2022 の目標達成度は、法人本部 40%、法人全体では 63.6%となった。

### 2. 運営状況

施設系サービスは年度を通して、看取り対応の増加やクラスターの影響による空床期間が増え、稼働率回復までに期間を要したが、短期入所を含む在宅系サービスは感染対策を徹底した上での受け入れやサービス継続を判断し、稼働率は前年度と比べ回復傾向となった。また感染対策のかかりまし経費や光熱費高騰による支出増加もあったが、物価高騰支援補助金等の申請により、財源を確保した。これらにより、総合福祉センター建替基本構想に基づく、施設整備積立金は目標額を上回る積立額となった。

理事会・評議員会の開催等については、通常開催の他、県や近隣地域における感染状況等を鑑み、決議の省略やオンラインによる開催を実施した。

### 3. 事業状況

#### (1) 人材確保事業

##### ① 県内外の各学校へ求人票の送付

県内の各高校（進学校を除く）に求人票を送付し、2023 年 3 月卒（新卒）及び既卒者向けの求人を行った。

##### ② 合同企業説明会及び就職説明会への参加

ハローワークや沖縄県社会福祉協議会、沖縄市、介護労働安定センターが主催する合同企業説明会への参加や、福祉保育専門学校による事業所説明会へ参加し、求人活動を行った。また、ハローワークとの協同により、求職者への施設見学・説明会を実施した。

### ③リクルートページの活用

昨年開設したリクルートページを活用し、求人情報を掲載するとともに、WEBからの応募の仕組みを導入したことで、複数の応募があった。また、法人全体のリクルートページとは別に、「緑樹苑」「はいびすかす」「ていんさぐぬ花」の施設ごとに専用のページを新たに開設し、WEB求人を広く宣伝を行った。

### ④各事業所の求人採用

必要な職員数の確保はできていないが、求人内容について各事業所と連携し、ハローワーク・求人誌・WEBを活用した求人採用を行い、37名を採用した。採用に至る面接日程の調整やオリエンテーションも実施した。

## (2) 設備整備事業

### ①設備整備積立金の確保

35,000,000 円の目標積立額に対し、48,600,000 円の設備整備積立金の積み立てとなった。

## (3) 職員研修事業

### ①事務局職員研修

会計に関する専門知識の取得や、介護施設に勤務する職員として最低限必要な介護に関する知識や対応等の向上を図るため、事務局員全員が下記の研修及び講習を受講した。

	研修項目	内容	時間
介護技術・知識	介護の知識	「高齢者の日常生活の理解」	83分
	認知症	「認知症の理解と対応」	63分
	感染対策	「感染症の予防とまん延防止」	149分
	看取り	「看取り期及び死後のグリーフケア基礎研修」	223分
法令遵守	虐待防止	「介護虐待を起こさないための基礎研修」	243分
	身体拘束	「身体拘束排除の知識」	36分
	個人情報	「倫理及び法令遵守、プライバシー保護の取り組み」	151分
	人権・倫理	「倫理・法令順守の理解」	24分
スキルアップ	専門知識	全国老協「会計基準実践的決算講習」	420分
		インボイス制度セミナー	120分
	ビジネス/接遇	「社会人としての考え方」 「チームの一員として働く」 「社会のルール・コンプライアンス」	125分

## ②マネジメントと職員意識の向上に向けた研修・勉強会

法人施設での集団感染（クラスター）の発生等により、上半期は未実施。下半期より毎月実施。各事業の収支実績の確認、収支に対する基本理解、今後における法人事業の考え方等の共通理解等をテーマとして実施した。

## ③研修委員会の開催

新型コロナウイルス感染症への対応や感染拡大防止のため、委員会は開催できなかった。キャリアパスに基づく階層に応じた研修や法定研修等を個別に協議・調整し各部署にて実施した。

## ④本部役職員研修

	研修・セミナー内容	参加者
6月6日	社会福祉法人監査セミナー	事務局長
8月30日	最適な人件費配分を実現する組織体制強化の手法	事務局長
9月19日	沖縄市オープンデータシンポジウム ～データを活用した地域課題の解決～	事務局長
10月13日	失敗しない ICT 導入と人材育成術	事務局長
12月19日	経営協セミナー 100年続く法人経営のヒント	事務局長
2月14日	生産性向上・介護 DX を実現する為の介護 ICT 推進	事務局長

## （４）広報事業

### ①竹とんぼ発行

令和4年5月号（253号）から令和5年4月号（264号）まで毎月発行した。面会制限等が続く中、広報誌を通じて利用者の活動の様子等を発信したほか、法人や各施設からのお知らせ求人情報などを発信した。

### ②ホームページによる情報の発信

昨年開設したリクルートページとは別に各施設（緑樹苑・はいびすかす・ていんさぐぬ花）個別に専用の求人ページを作成し、求人情報の発信の強化を図ったほか、法人からのお知らせや、『ぬちぐすい新聞』（地域包括支援センター西部北の広報誌）の掲載など、情報を発信した。

### ③地域ネットワークを活用した広報活動

法人の感染対策継続及び施設の感染拡大発生時の対応の為、また年度を通じた県内・地域の感染状況等を鑑み、今年度の地域訪問は中止した。

## (5) 主催行事及び地域における公益的な取組みの推進

### ①デイサービス利用者食事無料サービス

- ・提供食数 8,006 食

### ②高齢者を含む自宅療養者世帯への食事支援

- ・世帯数 27 世帯 支援者数 48 名 提供食数 693 食

## (6) 法人本部運営事務事業

### ①キャリアパス制度の構築

法人キャリアパス内容の周知を促すと共に、キャリアパスに基づいた人事考課による適切な評価実施の徹底を図った。また構築段階において必要な各人事考課者の評価内容調整や共通認識の整理を図った。

### ②法人事業財務分析

法人における決算計算書の財務分析を行い、収益性、短期安定性、長期持続性等、社会福祉法人の経営指標の基準値に対し、良好な経営状況であった。各事業の収支マネジメントについては、年度中で収支到達見込みの確認を行い、賞与率を決定した。また、次年度に向けた収支目標のヒアリングを行った。

指標		全国平均	緑樹会
収益性	サービス活動増減差額	2.6%	2.66%
	経常増減差額率	2.82%	3.54%
資金繰り	事業活動資金収支差額率	7.7%	9.53%
短期安定性	流動比率	335.9%	397.02%
長期持続性	固定長期適合率	83.1%	85.51%

サービス活動増減差額率	法人の主とする事業での収益性を示す。値はプラスであることが必要。
経常増減差額率	サービス活動収益に対する経常利益の割合を示す。値はプラスであることが必要。
事業活動資金収支差額率	当年度の事業活動による資金収入と資金支出のバランスを示し、資金の獲得能力を表す。値はプラスであることを要する。
流動比率	短期支払い義務に対する支払能力を示す。値が高いほど、短気的な支払能力が高いことを意味し、200%以上であることが望ましい。
固定長期適合率	固定資産の整備に関わる資金調達バランスを示す。値は100%以下であることが判定の目安となる。

③中期経営計画（アクションプラン 2027）の策定

持続可能な運営に必要な取組みを重点化した中期経営計画（アクションプラン 2027）を策定した。

<中期経営計画アクションプラン 2027 項目内容>

- ・中期収支計画
- ・人材育成、確保
- ・生産性の向上
- ・総合福祉センター建替え

④PDCAサイクルによる計画的な事業運営

各部署において感染拡大（クラスター）による対応や管理者変更に伴う運営立て直し、人員不足による各職種の事業対応等、各事業において運営の安定を図る負担が増加した為、PDCA サイクルのチェック部分は行わなかった。

⑤事務業務の合理化・効率化

事務局職員それぞれが抱える主業務や関連業務を整理し、役割分担の調整を図るとともに各担当事務業務のシェアや事務員間によるフォローの体制・調整を図った。また、ケアハウスていんさぐぬ花に事務員を配置し、法人での人事異動（施設長人事）に伴う事務業務の補助やコロナ禍における業務の対応にあたった。

また、更なる事務負担の軽減・業務効率化を図るためICTを活用したシステムの導入について、情報・資料の収集を進め、検討を図った。

⑥各種委員会及び会議の運営

<第三者委員の開催>

新型コロナウイルス感染拡大防止及び法人施設内における集団感染（クラスター）の対応等の為、第三者委員会の開催を中止とした。

<安全衛生委員会>

職員の安全衛生管理及び災害の未然防止と、職場環境の改善、職員の健康・衛生の保持増進を推進し、円滑に職務の遂行ができるよう下記のテーマについて開催を予定、法人施設の感染拡大発（クラスター）等を踏まえ、8回の開催となった。

開催月	テーマ	参加者
4月	労災について	5名
5月	ストレスチェック実施について	8名
6月	職員の健康管理について	中止
7月	ストレスチェック結果報告について	中止
8月	有休消化について	中止
9月	働きやすい環境について	中止

10月	腰痛予防対策について各部署の取り組み	8名
11月	感染症対策について	8名
12月	メンタルヘルス・ハラスメント各部署の対策について	8名
1月	次年度計画（案）について	6名
2月	健康診断・人間ドック受診について	7名
3月	今年度の活動について／次年度計画決定	7名

<幹部会議><感染症対策委員会>

- ・開催日：毎月（第1・3・5金曜日）及び適時
- ・開催数：23回
- ・内 容：各施設・事業所等の情報共有、業務の課題等の審議、具体的な方策など、事業経営全般にわたる検討、協議、事業実施の決議などの他、感染対策委員会として新型コロナウイルスへの感染対策、各施設の情報共有、法人内施設発生時の対応等について協議・指示を行った。

<施設長等会議>

今年度の収支の到達見込みの確認、賞与率、次年度人事及び昇給案の検討など実施。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、幹部会議を施設長等会議に切り替えて開催した。

<課長等会議><研修委員会>

- ・開催日：毎月第2・4金曜日
- ・内 容：新型コロナウイルス感染症への対応や感染拡大防止のため、課長等会議及び研修委員会は開催できなかった。研修については、キャリアパスに基づく階層に応じた研修や法定研修等を個別に協議・調整し各部署にて実施。現場における課題や業務に係る諸問題、連絡事項等についても、必要に応じて個別に各部署と協議・調整を図った。

**(7) 役員会等の開催**

<法人監査>

- ・開催日時：令和4年5月17日・18日
- ・監 事：宜野座哲監事、山城真仁監事
- ・内 容：令和3年度事業及び会計監査

<定時評議員会>

①第1回評議員会

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、決議の省略により実施。

- ・決議の省略提案日：令和4年6月24日
- ・議案内容：令和3年度事業報告について  
令和3年度計算書類及び財産目録の承認について  
社会福祉充実残額の原案について

<理事会>

①第1回理事会

- ・開催日時：令和4年6月3日
- ・議案内容：令和3年度事業報告及び決算の承認について  
社会福祉充実計画の原案について  
経理規程の改定（案）について  
育児・介護休業等に関する規則の改定（案）について  
給与規程の改定（案）について  
令和4年度定時評議員会の決議の目的である事項及び報告事項の提案について

②第2回理事会

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、決議の省略により実施。

- ・決議の省略提案日：令和4年6月24日
- ・議案内容：施設長等の選任（案）について

③第3回理事会

- ・開催日時：令和4年11月4日
- ・議案内容：理事長職務執行状況の報告  
常務理事（業務執行理事）職務執行状況の報告  
新型コロナウイルス感染症 クラスタ発生状況報告  
社会福祉法人指導監査及び社会福祉施設一般監査の実施報告  
中期経営計画『緑樹会アクションプラン2027』について  
令和4年度第一次補正予算（案）について

④第4回理事会

- ・開催日時：令和5年3月9日
- ・議案内容：理事長職務執行状況の報告

常務理事（業務執行理事）職務執行状況の報告  
令和4年度第二次補正予算（案）について  
令和5年度事業計画（案）の承認について  
令和5年度収支予算（案）の承認について  
給与規程の改定（案）について  
新型コロナウイルス感染症に関する主な対応報告  
令和5年度社会福祉法人緑樹会経営方針

## 総合福祉センター緑樹苑

\*介護老人福祉施設緑樹苑

\*在宅サービスセンター

## 介護老人福祉施設緑樹苑 事業報告

### 1. 総括

令和4年度の入居者の介護度割合は要介護4、5で80%を占め、入居者の重度化や、80歳以上が76%と高齢化の傾向であった。

年度の退去者は32名で、死去による退去は29名、そのうち施設での看取り介護は、看取り介護の適切な情報の提供と説明を行い、26名が施設での看取りを行った。

新型コロナウイルス感染症は、2回のクラスターが発生し、1回目は令和4年6月7日に1名の陽性が判明してから、入居者27名、ショートステイ利用者5名、職員9名の計41名の感染があり、終息の7月8日までに31日間を要した。この期間、入居者、ショート利用者32名中、入院治療できたのは8名で、残り24名は、施設内療養であった。2回目は、第7波のピーク時で、8月9日に入居者4名の陽性が判明してから、入居者21名、職員6名の27名が感染し、9月8日の終息までに31日間を要した。入居者21名は施設内療養で、その中で看取り介護を行っていた3名が亡くなられた。2回のクラスターで、入居者48名、ショート利用者5名、職員15名の計68名が感染した。

2回目のクラスター終息以降は、入居者の感染はなかったが、家庭内感染で職員2名の感染があった。

稼働率は、コロナ発生時の入院と、空床の新規調整ができなかったことが大きく、入院空床を合わせて1,750日の損失で、前年度の697日より1,053日の増であった。そのため前年度の97.3%から93.2%まで減少した。

新型コロナウイルス感染症の感染対策については、国、県の感染拡大防止に関する通知等を踏まえ、感染拡大防止に努めるとともに、法人の新型コロナウイルス感染症対策委員会の決定事項を入居者、職員へ周知徹底した。嘱託医との連携、指示のもと、新型コロナワクチン予防接種や防護具（ガウン、手袋、マスク、フェイスガード）の着用も徹底した。

面会については、4月から9月までは、家族及び入居者へは面会制限へのご理解・ご協力を依頼し、原則禁止という措置を取った。その代替でテレビ電話を活用した面会を実施し、27家族79回の利用があった。10月からは、制限を緩和し、アクリル板越しの対面での面会を実施し、55家族238回の面会があった。

### 2. 運営状況

稼働率は、2回の新型コロナウイルス感染症クラスターにより、目標の97%に届かず93.2%に減少した。人材確保は、年度を通して介護職員は、常勤職員7名、パート職員1名の採用を行ったが、退職者は常勤職員11名、パート職員1名と、人材確保は依然厳しい状況であった。

### 3. 事業状況

#### (1) 人材育成

コロナ禍の中で、県内外の研修は、WEB で参加することができた。施設内の研修（勉強会等）は、感染予防対策を取った上で予定通り開催することができた。

#### ①施設内研修 実施

施設内研修においては、研修ごとに担当職員自身が資料作成、講師役を担った。

月	研修名	参加人数
5月	身体拘束適正化・虐待防止	9名
6月	感染症予防	6名
7月	事故防止対策	13名
	褥瘡予防	13名
8月	認知症	15名
10月	看取り介護	8名
	事故防止対策	8名
11月	感染症予防	11名
12月	腰痛予防	8名
1月	身体拘束適正化・虐待防止	10名
	看取り介護	10名
2月	感染症予防	8名
3月	認知症	9名

#### ②本部研修・講座 未実施

コロナ禍の中で、感染対策のため開催できなかった。

#### ③施設外研修 実施

月	場 所	研修名	参加人数
6月	緑樹苑 (WEB 研修)	喀痰吸引等研修	1名
7月	緑樹苑 (WEB 研修)	喀痰吸引等研修	1名
9月	緑樹苑 (WEB 研修)	喀痰吸引等研修	1名
	緑樹苑	喀痰吸引等実施研修	1名
	緑樹苑	喀痰吸引等実施研修	3名
	緑樹苑	喀痰吸引研修 (講演)	1名
10月	緑樹苑 (WEB 研修)	福祉施設等給食担当職員研修	1名
	緑樹苑 (WEB 研修)	喀痰吸引等実施研修	4名
11月	緑樹苑 (WEB 研修)	沖縄県介護支援専門員協会研修	1名
12月	緑樹苑	認知症介護基礎研修	2名

1月	緑樹苑 (WEB 研修)	介護現場における口腔ケア誤嚥性肺炎ゼロ	10名
	沖縄市民会館大ホール	安全運転管理者等講習	1名
	緑樹苑 (WEB 研修)	リハビリテーション	1名
2月	緑樹苑 (WEB 研修)	介護分野における生産性向上推進フォーラム	1名
3月	緑樹苑 (WEB 研修)	介護分野における生産性向上推進フォーラム	2名
	緑樹苑	認知症介護基礎研修	3名

#### ④介護福祉士実務者研修支援 実施

実務経験2年の職員1名に、実務者研修に係る費用の助成を行った。

#### ⑤介護職員による喀痰吸引等の研修 実施

看護職員が、喀痰吸引等指導者講師の資格を取得したことから、講座からの研修者1名  
また、実地研修のみの3名が、自施設内で最後の実地研修を終えることができ、資格取得ができた。

#### ⑥認知症介護基礎研修 実施

医療・福祉関係の資格を有さない、直接介護の職員に対し、義務付けられている認知症介護基礎研修を5名が受講し修了できた。その他3名は受講途中で、次年度に受講修了する予定。

### (2) 感染症や災害への対応力強化 一部実施

#### ①感染症対策

国及び県の感染拡大防止に関する通知等を踏まえ、入居者、職員等への対応について十分留意し、感染拡大防止に努めるよう周知を徹底するとともに、嘱託医への報告、相談で適切な指導を受けることができ、より一層施設内の感染対策ができた。感染予防品に関しては、必要物品を備蓄することができた。

業務継続計画 (BCP) は策定し、研修は行うことができたが、訓練 (シミュレーション) は実施することができなかった。次年度に継続していく。

#### ②災害対策

自然災害発生時の業務継続計画 (BCP) は作成途中で、完成することができなかった。次年度に継続していく。

### (3) 入居者処遇

#### ①レク活動 実施

感染予防対策のため、一部中止もあったが、季節の行事等、規模を縮小しての開催を行った。

#### ②看取り介護への対応の充実 実施

「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」の内容に沿った対応を行った。また、看取り介護加算の新たな加算要件である、担当者会議

への生活相談員の参加も行った。

③栄養マネジメントの強化 実施

栄養マネジメントに基づき、入居者の栄養状態の改善、維持に努め、また、LIFEに栄養・摂食嚥下情報を提供し、栄養マネジメント強化加算の取得を行った。

④口腔衛生管理の充実 実施

協力医療機関の歯科医師及び歯科衛生士の協力のもと、口腔ケアについて具体的な技術的助言及び指導を受け、協働して口腔ケアスキルの向上が図れた。また、質の良い口腔ケアを提供することで、誤嚥性肺炎を予防することに努めた。

(4) 科学的介護の推進 実施

利用者情報、科学的介護推進の既往歴等、栄養・摂食嚥下、個別機能訓練計画及び生活機能チェック情報を提出し、フィードバックの情報を収集することができた。

(5) 備品整備 一部実施

①居室の冷房機3台が劣化のため、取替の予定であったが、修繕で補えた。厨房内の業務用冷房機2台中、1台が劣化のため取替予定が、取替期が遅れたため、次年度に取替を行う。

②厨房の業務用スライサー、コールドテーブルは、劣化のため取替を行った。

4. 行事・活動等 実施

(1) 年間計画報告

月	行事名	参加人数
4月	入居者健康診断 (4/12)	55名
	誕生会 (4/21)	40名
5月	母の日祝い会 (5/9)	30名
	誕生会 (5/26)	32名
6月	父の日祝い会 (6/17) 中止	0名
	誕生会 (6/25) 中止	0名
7月	七夕まつり (7/7) 中止	0名
	誕生会 (7/21) 中止	0名
8月	誕生会 (8/25) 中止	0名
9月	敬老会 (9/20)	31名
	誕生会 (9/29) 中止	0名
10月	入居者健康診断 (10/3)	54名
	運動会 (10/20)	32名
	誕生会 (10/27)	33名

11月	誕生会 (11/24)	27名
12月	誕生会 (12/15)	33名
	クリスマス忘年会 (12/23)	35名
1月	新年会 (1/4)	20名
	誕生会 (1/19)	27名
2月	誕生会 (2/16)	27名
3月	誕生会 (3/23)	29名
	消防訓練 (3/28)	46名

(2) 実習・ボランティア受入

新型コロナウイルス感染予防対策のため、受け入れなし。

(3) クラブ活動状況

クラブ名	回数 (年度)	参加人数 (1回当たり)
ミニシアター	42	24
音楽鑑賞	31	16
音楽体操	22	20

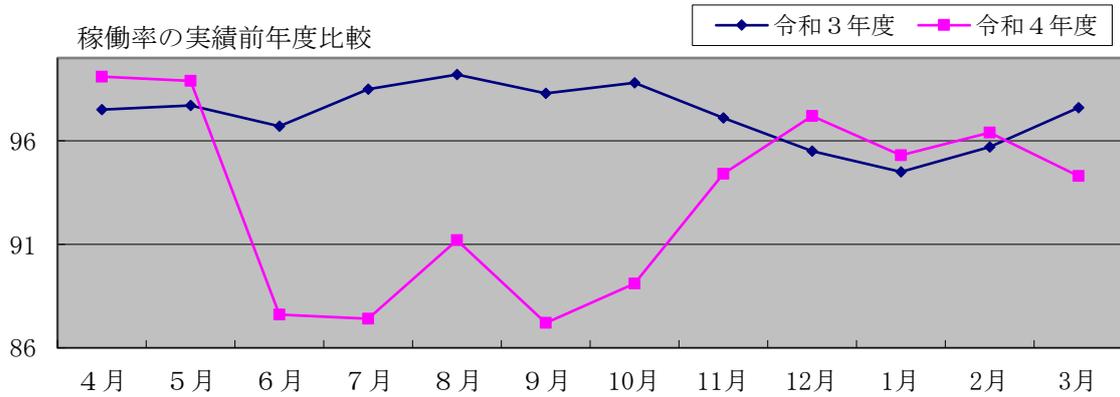
(4) その他

月	内 容
4月	選挙
5月	簡易水道検査
	害虫駆除及びマット消毒 (亜土消毒)
	法人監査
8月	新型コロナワクチン接種 (入居者 4回目)
9月	県監査
11月	害虫駆除及びマット消毒 (亜土消毒)
	新型コロナワクチン接種 (入居者及び職員 4回目)
12月	消防設備等機器点検
	新型コロナワクチン接種 (入居者及び職員 5回目)

5. 利用状況について

(1) 年度実績 (利用日数) 特養 70名

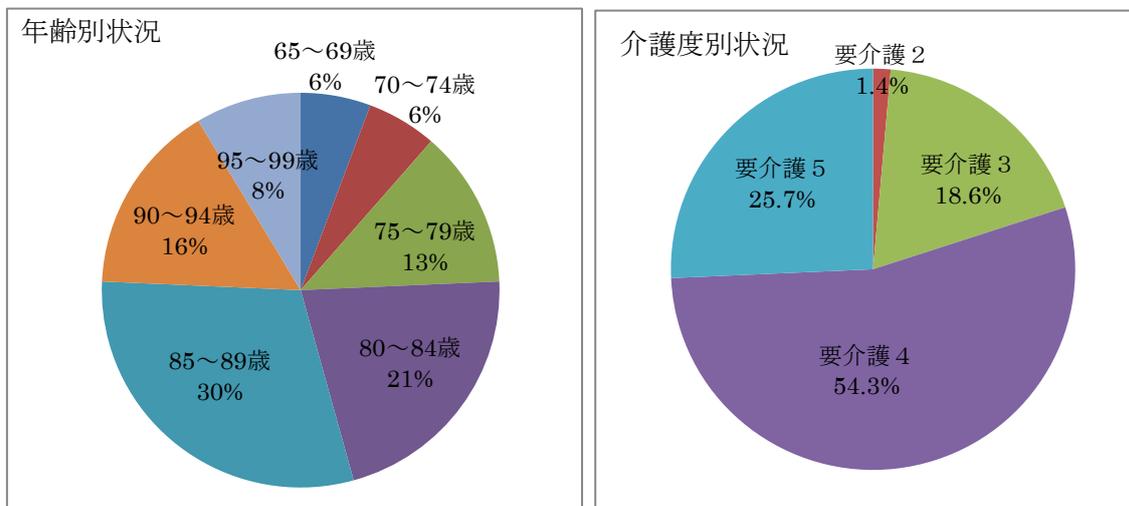
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
特 養	2,081	2,147	1,840	1,896	1,980	1,832	1,933	1,983	2,109
稼働率	99.1	98.9	87.6	87.4	91.2	87.2	89.1	94.4	97.2
月	1月	2月	3月	計					
特 養	2,069	1,889	2,046	23,805					
稼働率	95.3	96.4	94.3	93.2					



(2) 入居者の性別、要介護度別、年齢別の状況

介護度	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
65～69歳	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	2	2
70～74歳	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	1	3
75～79歳	0	0	0	0	1	1	1	2	2	2	4	5
80～84歳	0	0	0	0	0	1	2	8	1	3	3	12
85～89歳	0	0	0	0	2	3	2	9	0	5	4	17
90～94歳	0	0	0	1	0	2	1	6	0	1	1	10
95～99歳	0	0	0	0	1	2	1	2	0	0	2	4
100歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	1	4	9	9	29	4	14	17	53

- ・最大年齢 98 歳、最少年齢 66 歳
- ・平均年齢：男 83.17 歳、女 85.36 歳、計 84.85 歳
- ・平均介護度：男 4.3、女 4.1、計 4.1



(3) 入退所状況

令和2年度の入居者数は30人(男10人、女20人)、退去者は32人(男12人、女20人)で、死亡で退去の29人のうち、26人は施設での看取り介護であった。

区分 月	入居			退去					
	他施設 から入居	新規 入居	計	死亡 (看取り)	医 療 機 関	療養型 医療施設	家庭	その他	計
4月	1	1	2	2(1)	0	0	0	0	2
5月	0	1	1	2(2)	0	0	0	0	2
6月	0	0	0	4(3)	0	0	0	1	5
7月	2	4	6	1(1)	0	0	0	0	1
8月	0	0	0	5(5)	0	0	0	0	5
9月	1	0	1	2(2)	1	0	0	0	3
10月	0	6	6	2	0	0	0	0	2
11月	1	3	4	0	0	0	0	0	0
12月	0	1	1	3(1)	0	0	0	0	3
1月	1	1	2	1(1)	0	0	0	0	1
2月	0	2	2	0	1	0	0	0	1
3月	1	4	5	7(3)	0	0	0	0	7
計	7	23	30	29(26)	2	0	0	1	32

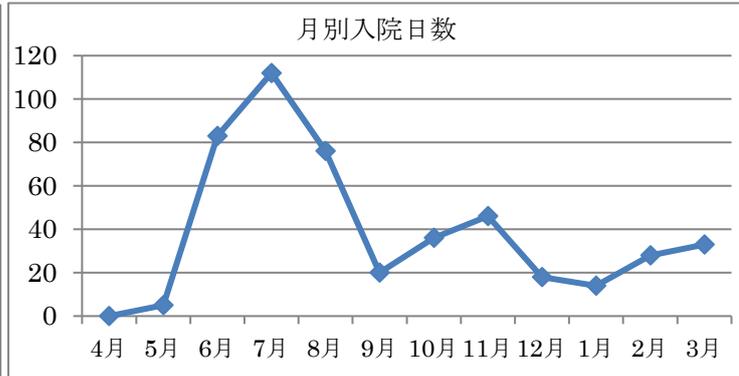
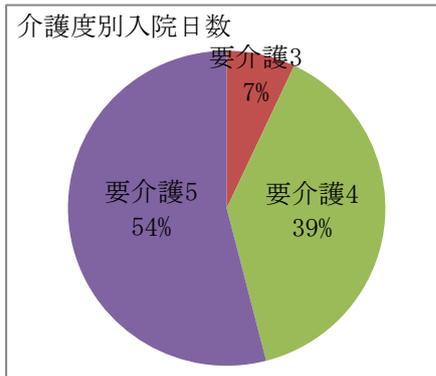
(4) 入居者の入院状況

入院日数は、要介護4、5で80%を占め、重度化による体力低下等の傾向が表れている。月別に見ると7月が一番多く、原因は、新型コロナウイルス感染症による入院が主であった。

介護度別入院日数

月 区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
4月	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	5	5
6月	0	0	0	48	35	83
7月	0	0	0	46	66	112
8月	0	0	0	23	53	76
9月	0	0	3	15	2	20
10月	0	0	5	0	31	36
11月	0	0	0	21	25	46

12月	0	0	0	18	0	18
1月	0	0	0	0	14	14
2月	0	0	1	7	20	28
3月	0	0	23	4	6	33
計	0	0	32	182	257	471



## 緑樹苑短期入所生活介護事業 事業報告

### 1. 総括

新型コロナウイルス感染拡大により、受け入れ制限を行ったことから、年度前半は、利用が安定せず、新規利用者を断るケースもあったが、後半の11月からは感染対策を徹底し、新規受け入れを増やしたことから、稼働率は持ち直し、昨年度の32.6%を上回り、71.8%まで上昇させることができた。

新型コロナウイルス感染症は、施設で2回のクラスターが発生し、1回目6月のクラスター発生時（特養入所者27名、職員9名）には、5名の感染があり、軽症のため施設内療養で隔離期間終了まで、在宅に帰ることができなかった。2回目8月のクラスター発生時（特養入所者21名、職員6名）には、感染はなかったが、2名の利用者が、終息するまで他施設への移動や在宅に帰ることができず、本人、ご家族にご迷惑と不安をおかけした。

感染対策は、年度を通して、介護老人福祉施設と同様、感染対策マニュアルや国の感染拡大防止に関する通知等を踏まえ、感染拡大防止に努めるよう周知徹底した。

### 2. 運営状況

稼働率は、コロナ禍の中で、クラスター等の影響を受けたが、年度後半の持ち直しで、目標の43%を上回り71.8%まで上昇した。

### 3. 実施内容（介護老人福祉施設における事業と一体的に取り組む）

#### （1）人材育成 実施（介護老人福祉施設と同様に行う）

##### ①施設内研修 実施

月	研修名	参加人数
5月	身体拘束適正化・虐待防止	1名
7月	事故防止対策	1名
10月	看取り介護	1名
2月	感染症予防	2名
3月	認知症	1名

#### （2）安定した稼働率の確保 一部実施

年度前半は、コロナ禍の中、クラスターの発生等で安定した稼働率の確保はできなかったが、年度後半からは、定期利用者の継続や新規利用者を増やすことができた。

#### （3）感染症対策及び災害対策の業務継続に向けた取組の強化 一部実施

感染予防対策は、国及び県の通知等を踏まえ、嘱託医の指導も受けながら実施した。介

護老人福祉施設と一体の業務継続計画（BCP）の作成、研修は実施できたが、訓練（シミュレーション）は実施することができなかった。次年度に継続していく。

自然災害発生時の業務継続計画（BCP）は、作成途中で、完成することができず、次年度に継続していく。

#### （４）利用者処遇

##### ①安心できるサービスの提供 実施

利用者・家族が、穏やかで安心されるケアを目指し、その人らしい生活を送り、その人らしく生きる事を援助できるよう、ケアマネージャーの計画書に添って、サービスの提供を行った。

##### ②レク活動の充実 実施

利用者が安心して目的をもって利用できるよう、リハビリや季節の余暇活動、趣味活動の充実を図るために、規模を縮小して、季節の行事等を開催した。

##### ③利用終了時には、利用状況を家族やケアマネージャーに詳しく伝え、安心・満足・信頼を感じてもらい在宅へのスムーズな復帰を支援する。

利用終了時には、利用状況表を家族へ手渡し、変化が生じた場合は、ケアマネージャーへの情報伝達を行った。

##### ④健康管理 実施

健康管理については、特別養護老人ホーム看護職員等により健康状況に注意するとともに、健康保持のための適切な措置を講ずる。健康管理に関し、利用状況書に必要な事項を記入し、退居時の際ご家族に引き継ぐ。

日々の健康チェックを行い、変化時の家族への連絡、利用状況書への記入を行い、家族に引継ぎを行った。

##### ⑤計画書に沿った機能訓練の充実 実施

サービス計画書に基づいて、心身の状態に合った機能訓練を計画的に実施し、利用者もっている心身の状態を可能な限り低下させないよう努める。

ケアプランや本人の希望を基に、残存機能を活かした訓練を、機能訓練員及び介護職員で行った。

##### ⑥家族との連携 実施

家族、介護者からの介護相談への対応等で介護負担の軽減に努め、連携を常に図るとともに、緊急時については速やかに連絡を取り、必要な措置を講ずる。

介護負担軽減のために急な受け入れや、特養への入所相談等の対応を行った。

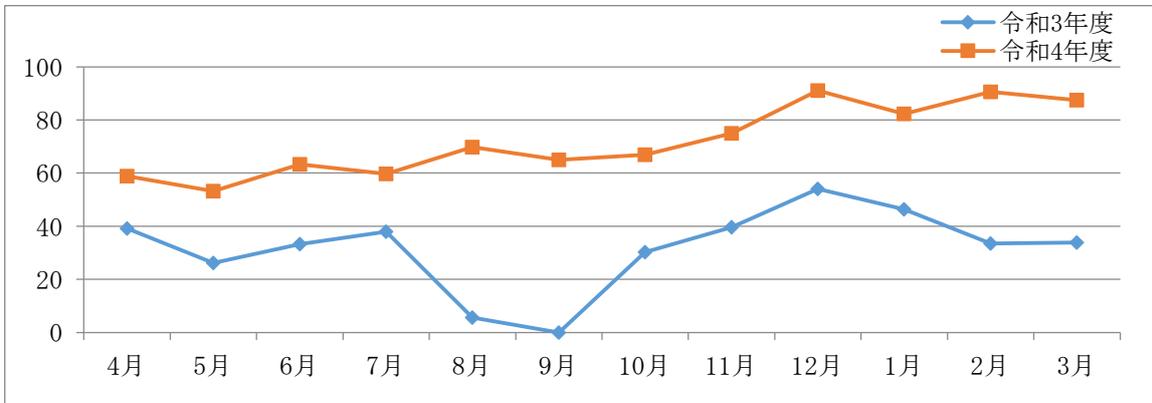
緊急時については、必要な連絡と措置を講ずることができた。

#### 4. 利用状況について

##### (1) 月間利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
利用延人数	141	132	152	148	173	156	166	180	226
稼働率 (%)	58.8	53.2	63.3	59.7	69.8	50.4	66.9	75.0	91.1
月	1月	2月	3月	計					
利用延人数	204	203	217	2,098					
稼働率 (%)	82.3	90.6	87.5	71.8					

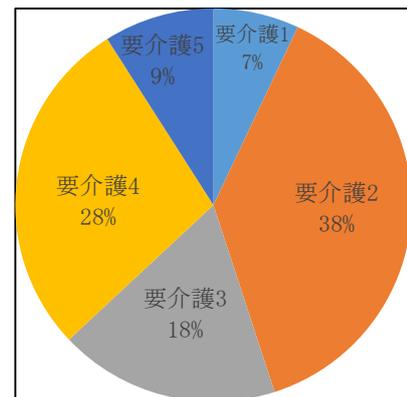
稼働率比較グラフ



##### (2) 要介護度別延べ人数

	男	女	計	割合 (%)
要介護 1	2	10	12	7
要介護 2	19	40	59	38
要介護 3	3	25	28	18
要介護 4	16	28	44	28
要介護 5	6	8	14	9
計	46	111	157	100

要介護度別



##### (3) 利用者平均要介護度

男	女	計
3.7	2.8	3.0

##### (4) 性別平均年齢

男	女	計
74.92	91.33	87.21

## (5) 提供支援事業所別定期利用者数

	支援事業所	定期利用者 (人)
1	中部徳洲会病院居宅介護支援事業所	7
2	緑樹苑指定居宅介護支援事業所	5
3	スマイルプラン元気のたね	4
4	ケアプランセンター愛聖	3
5	居宅介護支援センター沖縄市幸笑	3
6	居宅介護支援事業所おきなわ長寿苑	2
7	ケアプランあやかいの城	2
8	沖縄ケアサポートセンター	2
9	ケアプランえんまある	2
10	中部サンケアネット居宅介護支援事業所	1
11	JA おきなわ中部介護福祉センター居宅介護支援事業所	1
12	居宅介護支援事業所愛の村	1
13	居宅介護支援事業所愛誠園東センター	1
14	あかみち薬局	1
15	沖縄一条園居宅介護支援事業所	1
16	ケアプラン白浜	1
17	ケアプランステーションゆい	1
18	ケアプランセンターあかまる	1
19	ケアプランセンターあげな	1
20	ケアマネジメント比謝川の里	1
21	介護計画相談所さとうきび	1
22	居宅介護支援事業計画シオン	1
23	在宅介護サービスつなぐサポート	1
24	一般社団法人中部地区医師会指定居宅介護支援事業所	1
	計	45

## 緑樹苑給食センター 事業報告

### 1. 総括

令和4年度は、原油価格の高騰による燃料費増・消耗品増・食品、食材の相次ぐ値上げにより原材料の仕入れ値も大きく影響を受け厳しい状況があり、宅配弁当売値の値上げに踏み切った。値上げによる利用者からの反響は予想以上に少なく、むしろこれまでの重ねた努力の成果が反映され、他社の宅配サービスも充実する中、食数の落ち込みはなかった。

食は健康維持であることを念頭に、利用者に個別に配慮した、栄養バランスの摂れた季節折々のメニュー・沖縄料理・沖縄行事食・沖縄薬草取り入れた薬膳料理を提供し健康増進を図った。宅配サービス事業を通して、在宅高齢者の安全と安心を見守り、併せて食生活の改善を促進し健康的な生活のサポートを行った。配達時に、身体状況変化等のケースが1件あり迅速に家族・関係機関・ケアマネ等との連携を密にとり適切な対応を行った。

施設食においては施設内で感染者が発生したことを受け、感染対策の徹底を図り、使い捨て弁当容器を使用した食事の提供を行うとともに、職員間で連携を図り感染拡大防止に努めた。新型コロナウイルス感染症は、職員9名の陽性者と濃厚接触者2名が発生した。就業制限により、勤務体制を維持することの困難な状況もあり職員の身体的、精神的な負担は計り知れないものであったが、職員の努力・協力により乗り切ることができた。

### 2. 運営状況

配食サービスは、沖縄市の委託事業のため利用者数の増減はほぼなく、年間4,875食提供し前年比100%となった。給食サービスにおいては、月間3,400食、年間40,800食を目標とし、居宅介護支援センター・地域包括センターと連携を図るとともに、ポスティング等の営業活動も行い新規利用者53名獲得に繋がった。長期入院や施設入所で契約終了もあったものの、実績月間平均3,457食、年間41,485食、前年度と比べて713食増となり目標達成となった。

職員においては、調理員の退職があり、調理員・配達員をハローワーク・求人誌等に記載したが応募なく人材確保は厳しい状態であった。

### 3. 事業状況

#### (1) 宅配サービス

配達実施地域

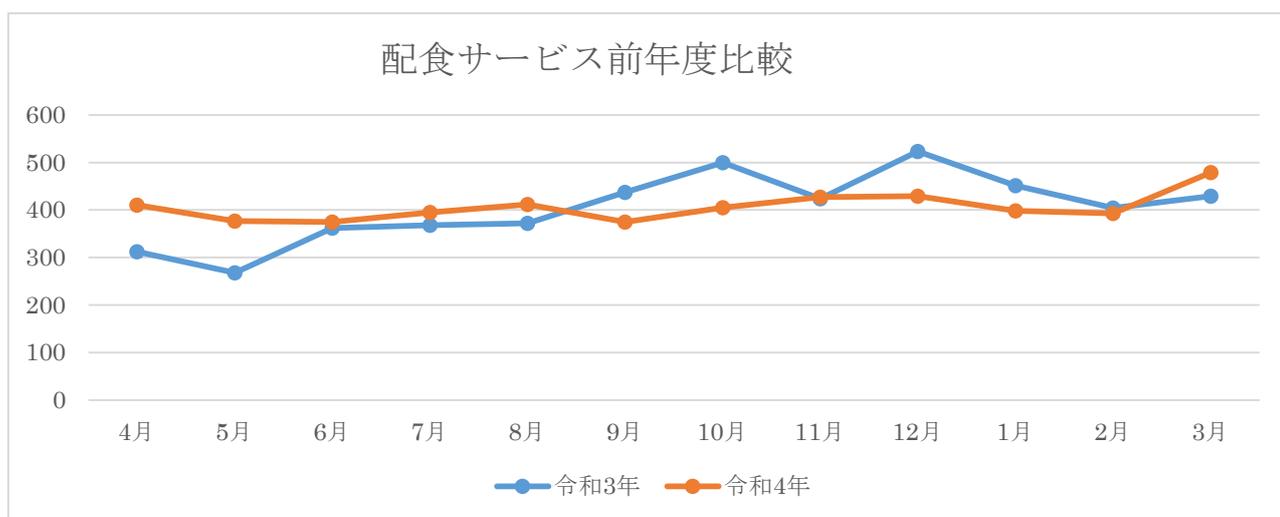
胡屋	園田	南桃原	池原	知花	松本	美里
嘉間良	住吉	久保田	照屋	古謝	大里	泡瀬
諸見里	山内	安慶田	登川	室川	城前	与儀
久保田	山里	海邦町	美里仲原町	宮里	美原	吉原
高原	桃原	八重島	中央	仲宗根町	上地	桃原
東	越来	比屋根	北中城島袋	北谷町吉原		

① 配食サービス

市が認めた 65 歳以上の高齢者・高齢者世帯へ月曜日～土曜日までの昼食又は夕食上限 5 回まで宅配し安否確認を行った。

年間実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間食数
令和3年	312	288	362	368	372	437	500	424	523	451	404	429	4,870食
令和4年	410	377	375	395	412	375	405	427	429	398	393	479	4,875食

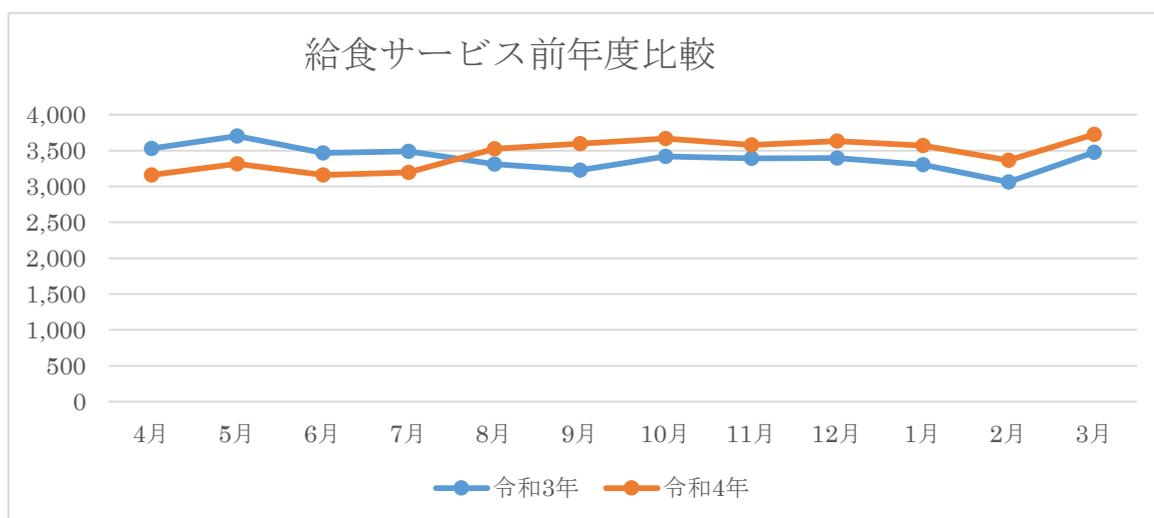


② 給食サービス

食事の困難な方や高齢者・高齢者世帯へ栄養バランスの取れた食事を月曜日～日曜日の昼食及び、夕食を宅配し安否確認を行った。

年間実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間食数
令和3年	3,530	3,701	3,469	3,489	3,312	3,225	3,418	3,391	3,396	3,301	3,064	3,476	40,772
令和4年	3,160	3,314	3,159	3,195	3,525	3,594	3,665	3,580	3,632	3,568	3,366	3,727	41,485



## (2) 利用者への食の提供

### <目的>

利用者に寄り添い、喜んでいただける「楽しめる・笑顔のある」食事提供に努める。

### <内容>

- ① 食べる楽しみからくる健康で、笑顔のある食事 <一部実施>
  - ・嚥下調整食においては、なめらかにした食材をゼラチン・ゲルケ剤の使用方法及び適度について統一濃度で提供できるよう周知し、実際に近い形に成形を行い(肉・魚)に焼目を入れる工夫を行う事で、見た目の良さが食べたい気持ちをアップしてくれる食事の提供を行った。
- ② 安心・安全な食事の取り組み <実施>
  - ・クックチル調理による安心・安全な食事の提供を行うとともに、計画的に調理した食材を急速冷却チルド保存し、食事を提供するタイミングで、再加熱調理を行い利用者の個別状態に合わせた食事の形態で栄養バランスのとれた食事の提供を行った。
- ③ 食事の安定提供 <実施>
  - ・スチコンメニュー温度設定表を厨房内に貼り付け、「調理モード」「温度」「時間」の一定化を図るとともに、食事の安定提供に取り組みスチコンレシピ集を作成した。スチコン活用方法及びレシピ加熱調理方法等の(オンライン)研修に積極的参加した。

## (3) 人材育成

職員一人ひとりが、明るい笑顔と挨拶を心がけ、調理員として、「美味しい食事を作りたい・

利用者を喜ばせたいという気持ちをもち質の高いサービスを図る。

<内 容>

- ① 職員が、目標をもって専門職としての業務に必要な知識や技術を習得させる勉強会、研修等に力を入れステップアップを図る。<実施>
  - ・外部研修（オンライン）積極的に参加を行い、定期的に動画配信レシピ等の勉強会も実施し、専門職としてのステップアップを図った。
  
- ② 充実した食事を提供するために、調理技術や調理方法を習得するように、先輩職員が指導を行いより優れた人材育成に努める。<実施>
  - ・職員間同士の人間関係に配慮した職場づくりに努め、介護食の食事形態や調理方法・盛り付け等の指導を行い、調理員としての知識を学びスキル向上に努めた。
  
- ③ 管理栄養士としての知識を深める為の研修・栄養士連絡会 <実施>
  - ・社会福祉施設等栄養士・調理員職員研修（オンライン）参加
  - ・栄養ケア・マネジメントの強化に向けたスキルアップ研修（オンライン）参加。
  
- ④ 調理員としての知識を深める為の研修・調理員連絡会・調理技能研修 <一部実施>
  - ・社会福祉施設等栄養士・調理員職員研修（オンライン）参加
  - ・社会福祉施設等給食担当職員研修（オンライン）参加。
  - ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、調理技能研修は参加できなかった。
  
- ⑤ 専門職としての能力を向上させるために、介護食レシピ・スチコンレシピ・ネット配信レシピ等の勉強会を行う。<実施>
  - ・再加熱キャビネット調理システム等（オンライン）参加。
  - ・スチコン活用した、素材を活かした調理（オンライン）参加。
  - ・動画配信介護食レシピの勉強会を実施。
  
- ⑥ 新人職員については、先輩職員が付き、専門職としての技術・知識を指導する。<未実施>
  - ・職員採用ができず、未実施。
  
- ⑦ 調理師資格取得試験準備講習・その他自主的な研修、取得に係る経費を助成行い、職員のステップアップを図る。<未実施>
  - ・調理師資格取得試験準備講習は、受験者がいなかった為、助成は行わなかった。

月	場 所	研修名	参加人数
5月	緑樹苑 (Web)	再加熱キャビネット調理	3名
	緑樹苑 (動画配信)	介護食レシピ	1名
6月	緑樹苑 (Web)	スチコン活用・加熱方法等	2名
	緑樹苑 (動画配信)	沖縄料理	2名
7月	緑樹苑 (Web)	スチコンで素材を活かした調理	1名
8月	緑樹苑 (動画配信)	クックチル調理	1名
	緑樹苑 (動画配信)	介護食	
9月	緑樹苑 (Web)	社会福祉施設栄養士・給食担当職員研修	3名
	緑樹苑 (Web)	社会福祉施設給食担当職員研修	3名
10月	緑樹苑 (Web)	栄養ケア・マネジメントの強化に向けたスキルアップ	1名
	緑樹苑 (動画配信)	スチコンレシピ	1名
11月	緑樹苑 (Web)	嚥下調整食の提供	1名
1月	緑樹苑 (動画配信)	琉球薬膳レシピ	1名
3月	沖縄ロワジールホテル	食材展示会	2名

#### (4) 衛生管理の徹底 <実施>

- ・貯水槽の清掃 4月 実施。
- ・害虫駆除 (全館) 5月・11月・年2回実施。
- ・害虫駆除 (厨房) 5月・8月・11月・2月年4回実施。
- ・H A C C P・衛生管理計画書を作成し実行内容日々記録実施。

#### (5) 自然災害や感染症に備えて非常食の備蓄管理 <実施>

非常食 (飲料水・缶詰・レトルト食品等) の食品を3日分常備、また賞味期限を確認し入れ替えを行った。

#### (6) 新型コロナ感染予防対策 <実施>

毎日の申し送りで県内の感染状況を情報共有し、新型コロナウイルスへの認識・感染対策の理解を持ち、手洗い・手指消毒、検温、マスク着用を徹底し、食堂ホール・栄養士室のこまめな換気を行い、配達員は、配達ごとに手指消毒を行い感染予防に努めた。業者においては、マスク着用・検温・手指消毒・氏名・来訪日時の連

絡先記入の実施。

(7) 年間行事

	特養	デイ	宅配
4月	誕生会祝い膳・ケーキセット 手作りおやつ	誕生会祝い膳・ケーキセット カフェタイム・ケーキ 手作りおやつ	健康弁当 盛り合わせ弁当
5月	誕生会祝い膳・ケーキセット 母の日祝い膳 手作りおやつ	誕生会祝い膳・ケーキセット 母の日祝い膳 カフェタイム・ケーキセット 手作りおやつ	健康弁当 母の日祝い弁当 盛り合わせ弁当
6月	誕生会祝い膳・ケーキセット 父の日祝い膳 手作りおやつ	誕生会祝い膳・ケーキセット 父の日祝い膳 カフェタイム・ケーキセット 手作りおやつ	健康弁当 父の日祝い弁当 盛り合せ弁当
7月	誕生会祝い膳・ケーキセット 七夕まつり七夕膳 手作りおやつ	誕生会祝い膳・ケーキセット 七夕まつり七夕膳 カフェタイム・ケーキセット 手作りおやつ	健康弁当 七夕弁当 盛り合せ弁当
8月	誕生会祝い膳・ケーキセット 旧盆・盛り合わせ 手作りおやつ	誕生会祝い膳・ケーキセット 旧盆・盛り合わせ カフェタイム・ケーキセット 手作りおやつ	健康弁当 旧盆弁当 盛り合せ弁当
9月	誕生会祝い膳・ケーキセット 敬老会祝い膳 手作りおやつ	誕生会祝い膳・ケーキセット 敬老会・祝い膳 カフェタイム・ケーキセット 手作りおやつ	健康弁当 敬老祝い弁当 盛り合せ弁当
10月	誕生会祝い膳・ケーキセット 手作りおやつ	誕生会祝い膳・ケーキセット カフェタイム・ケーキセット 手作りおやつ	健康弁当 盛り合せ弁当
11月	誕生会祝い膳・ケーキセット 手作りおやつ	誕生会祝い膳・ケーキセット カフェタイム・ケーキセット 手作りおやつ	健康弁当 盛り合せ弁当
12月	誕生会祝い膳・ケーキセット クリスマス(チキン) ケーキセット	誕生会祝い膳・ケーキセット カフェタイム・ケーキセット クリスマス(チキン)	クリスマス弁当 健康弁当 盛り合せ弁当

	手作りおやつ 年越しそば	ケーキセット 手作りおやつ 年越しそば	年越しそば
1 月	新年会祝い膳 誕生日祝い膳・ケーキセット 七草粥 手作りおやつ	新年会祝い膳 誕生日祝い膳・ケーキセット カフェタイム・ケーキセット 七草粥 手作りおやつ	正月弁当 七草粥 健康弁当 盛り合せ弁当
2 月	誕生日祝い膳・ケーキセット 手作りおやつ 旧正月・盛り合わせ バレンタインデー（ハートコロ ック）	誕生日祝い膳・ケーキセット カフェタイム・ケーキセット 手作りおやつ 旧正月・盛り合わせ バレンタインデー（ハートコロ ック）	盛り合わせ弁当 健康弁当 バレンタインデー （ハートコロ ック）
3 月	誕生日祝い膳・ケーキセット 手作りおやつ ひな祭り膳	誕生日祝い膳・ケーキセット カフェタイム・ケーキセット 手作りおやつ ひな祭り膳	健康弁当 盛り合せ弁当 ちらし寿司弁当

## 在宅サービス 緑樹苑デイサービスセンター 事業報告

### 1. 総括

令和4年度も新型コロナウイルスの影響を受けたが、コロナ過においても利用者が楽しみがもてるよう学童クラブとの交流、苑内農園での草花や野菜などの栽培や収穫、外出機会が図られよう遠遊会やミニドライブ等を実施し利用者に喜んでもらえた。今年度は三線クラブを立ち上げ、三線の日に合わせて3月に発表会を開催し利用者から好評を得ることができた。年間を通し職員8名、利用者13名（内濃厚接触者1名）の新型コロナウイルス感染が確認された。8月に利用者・職員の感染が相次ぎ感染拡大防止の為4日間デイサービスを閉鎖した、閉鎖期間についてはケアマネジャーと連携を取りデイサービス職員による訪問サービスへの切り替え等代替サービスを検討し提案をしたが希望者はいなかった。（家族対応や給食サービス等で対応ができた）

### 2. 運営状況

令和4年度の事業目標、1日平均29人以上、月間延利用者数720人以上に対し、実績1日平均26.2人、月間平均延利用者数667.2人、稼働率74.6%と事業目標達成出来ていない。

デイサービスで新型コロナウイルスの感染者が確認された場合、利用者、ご家族の意向で利用自粛があったことや利用者・同居家族の体調不良に関する利用自粛や、コロナ感染による長期入院等があり稼働率が伸びない状況があった。コロナ感染後入院中に死亡した利用者も1名いた。新規獲得18件、施設入所8件、死亡7件、その他3件の終了となった。

### 3. 事業状況

#### (1) サービスの質の向上

- ①医療的ケアが多い利用者も在宅生活が維持できるよう積極的な受け入れに取り組む。  
→在宅看取り利用者1名、インスリン注射1名、フォーリー留置利用者1名、全介助利用者（要介護5）2名の新規利用者の受け入れに繋げることができた。
- ②モニタリングの実施
  - ・利用者にモニタリングを行い、意向に沿った活動プログラムやサービスの提供に努める。
  - 利用者からの要望で「天気の良い日などドライブに行きたい」の声があり、ミニドライブの実施や小物作りや脳トレーニング等好きな活動を多くした。
  - ・家族、ケアマネジャー等と連携を図り、ニーズの達成度等を確認する。
  - ご家族や担当ケアマネジャーと連携を図り、利用者のニーズを聞き取り意向に合わせた利用日の変更等、柔軟に対応した。
- ③レク活動の選択が出来るよう取り組みを行う。

- ・レク活動のグループ分けを行い、利用者が自主的に選択し参加できるようにする。
- 午後のレク活動では、利用者が作業分担しながら活動し、屋外での活動を好む利用者は苑内散歩や農園活動などを行っている。
- ・利用者の外出機会が図られるよう、苑内散歩や遠遊会、月1回のミニドライブ等を実施する。
- 天気の良い日は職員と一諸に花を觀賞しながら苑内散歩を実施した、園外活動としてミニドライブや遠遊会を実施した。
- ・三線クラブ創設し、三線に興味のある利用者と職員が集い楽しめるようにする。
- 三線クラブでは、三線の練習に取り組んでいる利用者の成果を発表する機会を設け、3月4日（三線の日）に合わせ発表会を開催。利用者から好評を得た。
- ・デイサービスの畑を充実させ、野菜や果実等の栽培、収穫、おやつ作り等利用者がそれぞれ好きな分野に参加し楽しめるように取り組む。
- 利用者宅から花・野菜の苗や種など持ち寄って利用者が自主的に農園活動を行った。利用者が畑を耕し植え付けや水やり、収穫、おやつ作りと好きな分野に参加をした。
- ④利用者が現在の生活をいつまでも維持できるよう、個別機能訓練や苑内歩行訓練を実施ADL、IADLの維持に努める。
- 苑内散歩、農作業の他にも個別に機能訓練を実施。昇降階段や平行棒での訓練や、必要に応じて歩行器の使用法などの訓練を行っている。
- ⑤学童クラブとの世代間交流を楽しむ。
- ・新型コロナ感染状況を見据えつつ、学童クラブとの交流を可能な方法で実施できるように取り組み、世代間交流を通し楽しみが持てるようにする。
- リモート交流やアクリル板を挟んでの交流等感染対策を講じながら、学童クラブとの交流会を実施した。
- ⑥食事無料化を継続する。
- ・利用者及びその家族の経済的負担を軽減する事で利用しやすいデイサービスに努める。
- 食事無料化に対し、経済的な理由からサービスの利用をひかえている利用者の担当ケアマネージャーからの問い合わせも多く、食事無料化で利用がしやすいとの声があった。

## (2) 人員の確保及び育成

- ①法人内外の研修や勉強会への参加。
  - ・各専門職（看護師・訓練員）の研修やセミナー等を検索し積極的に参加する。
  - 機能訓練（リハビリ）についてネット配信研修に1名参加。
  - ・職員研修計画（新人・中堅・主任・管理職）に沿ってネット配信研修に参加をする。
  - 研修計画に沿ってネット配信研修に参加した（新人・中堅・主任・管理職）
- ②OJT-OFFJTの構築ができる取り組みを行う。
  - ・OJTではマンツーマンの指導ができるように勤務体制に配慮し参加する。

- 新人職員や、新たに入る業務に関しては、1週間マンツーマンでOJTを実施した。
- ・管理者は定期的に職員と面談し相談しやすい環境を作り、働きやすい職場作りに取り組む。
- 業務の中で、戸惑い等みられる際には積極的に声掛けを行い、話しやすい職場作りに努めた。
- ③介護実務者研修、及び認知症介護実践者研修の資格取得に係る経費の助成を行う。
- ・受講できる勤務体制に努め、それぞれの研修に1名を派遣する、
- 認知症介護実践者研修に職員1名を派遣、介護福祉士国家資格試験に1名が合格した。
- ④高齢者虐待防止委員会を設置する。
- ・利用者の人権の擁護、利用者に対する虐待の禁止等について職員が認識し予防早期発見のため、定期的に委員会を開催する。
- デイサービス内において、高齢者虐待防止委員会を設置することはできなかったが6月に虐待防止について勉強会を実施。その中で職員へ虐待防止委員会の設置について今後の取り組み等を周知した。

### (3) 業務改善

- ①タブレット端末の活用法を見直し更なる業務改善に取り組む。
- ・紙媒体での記録から電磁的記録に移行できるように取り組み、記録業務負担の軽減を図る。
- 紙媒体から電磁的記録に移行し、記録業務の負担軽減ができた。
- ②LIFE加算の取得に取り組む。
- ・利用者の基本的な情報を厚生労働省に提出し、科学的介護推進体制加算と個別機能訓練加算(Ⅱ)の加算取得に取り組む。
- LIFE加算を取得している。

### (4) リスクマネジメント

- ①防災マニュアルに沿って法人内の防災訓練に参加する。
- ・月1回以上のデイサービス内の防災訓練に参加する。
- 毎月の防災訓練では、火災、台風、地震などさまざまな災害について利用者が理解しやすいようにクイズ形式で説明をしたり防災の意識付けを行った。
- ・年2回以上のデイサービス内の避難誘導訓練を実施する。
- 4月、12月にデイサービス内の避難誘導訓練を実施した。
- ②利用者送迎時における交通法規の遵守。
- ・出勤時には、アルコールチェック及び免許証携帯の確認を行う。
- 出勤時にはアルコールチェック及び免許証携帯を確認し記録簿に記載した。
- ・安全運転についての勉強会を年1回開催する。
- 安全運転講習会をデイサービスで年2回開催し在宅職員32名が参加した。また、安全運転管理者講習に担当職員を派遣した。

③送迎車の日々の車両チェック及び老朽化への取り組み。

- ・車両は利用者の安全に大きく関わることから、法定点検及び毎日の車両チェックを行い、不備等あれば早急に対応する。

→毎朝送迎前に車両の点検を実施。不備等あれば早急に対応した。

- ・送迎車両の老朽化（1台：14年）があり、購入及びリースを検討する。

→老朽化した車両（1台）を廃車した、ていんさぐぬ花より車両1台の移動がありあらたに購入やリースはしていない。

④非常災害対策に向け地域との連携が図られるように努める。

- ・非常災害時には地域等との協力関係が得られるよう、取組みを構築していく。

→地域との連携を図ることができず、災害対策に向け地域との協力関係が図られるよう、地域包括支援センターへ協力を仰ぎ、取組みをしていく。

(5) 感染症対策

①職員は出勤前の体温測定、休憩後の体温測定を行い、体温記録簿に表記する。

携帯ボトルにアルコール消毒液を携行し、随時手指消毒が出来るようにする。

→毎朝の申し送りで県内の感染状況の確認、法人の感染症対策委員会やデイサービス内の感染症対策委員会の情報を全職員で共有し、感染症予防対策に意識付けを図ることができた。

②マスク着用、手洗い、手指消毒の徹底、不要不急の外出の自粛。

→出勤時の体温測定及び休憩後の体温測定。常時マスクの着用や入浴介助時にはフェースシールドを着用している、職員は不要不急の外出の自粛に努めた。

③デイサービスでは常時換気を行うと共に、送迎車の換気と使用前消毒を行う。

→送迎車両に乗る前に検温を行い、車両の窓を開け換気を実施。送迎に出る前には車両の消毒作業を行い感染症予防対策に努めている。

④利用者においては、常時マスクの着用や手洗い、手指消毒を促す。

→利用者へのマスク着用の声掛けは全職員で行い、手洗い、アルコール手指消毒も徹底して行っている。

⑤デイサービスに感染症対策委員会を設置する。

- ・感染症対策委員会を年3回開催、その都度変化する感染症対策や予防に努める。

→デイサービス内感染症対策委員会を6月・1月に開催した。

(6) BCP（感染症発生時と災害発生時における業務継続計画）を策定する。

- ・感染症や災害発生時も事業の継続と早期回復を図る。

→災害発生時における事業継続計画を一部作成。次年度には完成予定。

#### 4. 行事・活動等

##### (行事・イベント)

4月	手作りおやつ会 (7日)	30名
	浜下りドライブ (12日・15日)	38名
	カフェタイム (14日)	30名
	三線クラブ (20日)	7名
	避難誘導訓練 (25日)	23名
	誕生会 (28日)	32名
5月	職員による三線ショー (6日)	21名
	三線クラブ (11日)	6名
	カフェタイム (16日)	22名
	母の日会 (20日)	25名
	手作りおやつ会 (23日)	20名
	誕生会 (25日)	26名
6月	手作りおやつ会 (10日)	34名
	カフェタイム (15日)	29名
	父の日会 (20日)	22名
	三線クラブ (22日)	5名
	誕生会 (25日)	29名
	学童交流会「新一年生お披露目会」 (28日)	31名
7月	七夕会 (7日)	27名
	三線クラブ (19日)	6名
	手作りおやつ会 (15日)	26名
	カフェタイム (26日)	30名
8月	誕生会 (5日)	22名
	お盆：中日エイサー (11日)	24名
	カフェタイム (15日)	25名
	夏まつり (23日)	27名
	三線クラブ (24日)	5名
	手作りおやつ会 (25日)	26名
	手作りおやつ会 (7日)	27名
	カフェタイム (15日)	27名

9月	敬老会 (19日)	28名
	誕生会 (29日)	26名
10月	運動会 (7日)	26名
	カフェタイム (10日)	21名
	手作りおやつ会 (20日)	27名
	誕生会 (27日)	32名
	学童交流会「ハロウィーン交流」 (29日)	27名
11月	カフェタイム (8日)	29名
	遠遊会 (10日・11日)	28名
	手作りおやつ (14日)	25名
	三線クラブ (16日)	3名
12月	11月誕生会 (1日)	25名
	避難誘導訓練 (5日)	30名
	カフェタイム (6日)	29名
	誕生会 (13日)	28名
	手作りおやつ (19日)	30名
	三線クラブ (24日)	5名
	クリスマス忘年会「学童交流会」 (26日)	27名
1月	新年会 (4日)	28名
	カフェタイム (10日)	27名
	誕生会 (17日)	27名
	三線クラブ (18日)	3名
	手作りおやつ (25日)	25名
2月	学童交流会「節分、豆まき」 (4日)	23名
	カフェタイム (8日)	27名
	誕生会 (14日)	29名
	ミニドライブ・手作りおやつ (23日)	26名
3月	三線の日、三線クラブ発表会、三線ショー (4日)	24名
	カフェタイム (10日)	26名
	誕生会 (14日)	27名
	手作りおやつ (22日)	22名
	学童交流会「ダンスお披露目」 (27日)	28名

	ミニドライブ (29日)	12名
--	--------------	-----

(職員研修、勉強会等) 例

月	場 所	研修・勉強会名	参加人数
4月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「倫理・法令遵守について」(5日)	9名
5月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「緊急時対応について」(30日)	9名
6月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「高齢者虐待防止について」(9日)	7名
7月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「高齢者虐待防止について」(5日)	8名
8月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「プライバシー保護について」(29)	9名
9月	緑樹苑デイサービス	安全運転講習会(16日・26日)	32名
	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「非常災害時の対応」(27日)	10名
10月	学童クラブ	新人研修Ⅱ(11日)	2名
	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「認知症の理解と対応」(26日)	7名
12月	緑樹苑会議室	中堅職員研修(5日)	1名
	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「介護予防、レクについて」(27日)	10名
1月	緑樹苑会議室	フォローアップ研修(11日)	1名
	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「事故対応について」(26日)	10名
2月	緑樹苑会議室	主任・係長研修(8日)(16日)	2名
	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「感染症について」(24日)	9名
3月	緑樹苑会議室	ステップアップ研修(15日)	1名
	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「尊厳について」(27日)	9名

(その他)

	その他
4月	安全衛生委員会(21日) 在宅会議(28日)
5月	在宅会議(23日)
7月	在宅会議(15日)
9月	在宅会議(2日) 安全運転講習会(16日・26日)
10月	新人研修Ⅱ(11日)2名 沖縄県権利擁護推進員養成研修(18日～20日)1名
11月	在宅会議(6日) 認知症介護実践者研修(8日～11月10日)1名
12月	中堅職員研修(5日)1名 安全衛生委員会(15日) 在宅会議(19日)
1月	フォローアップ研修(11日)1名 安全衛生委員会(19日) 在宅会議(20日) 安全運転管理者講習(24日)1名 ケアプランデータ連携システム説明会(24日)1名
2月	主任研修(8日・16日)2名 安全衛生委員会(16日)

	介護保険部会の審議に関するセミナー（14日）1名
3月	ステップアップ研修（15日）1名 安全衛生委員会（16日） 在宅会議（17日） 介護分野における生産性向上フォーラム（16日）1名

## 6. 利用状況について

### (1) 年間実績（利用日数）

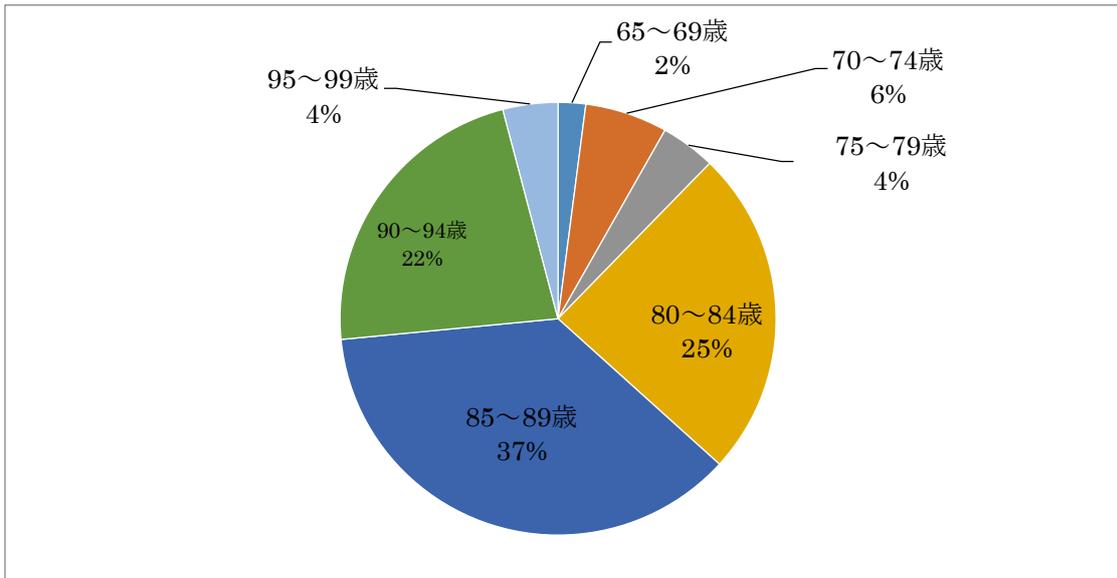
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
日数	26	26	26	26	23	26	26
総合事業	31	22	36	29	32	41	42
要介護	718	608	687	636	543	644	673
延べ人数	749	630	723	665	575	685	715
稼働率	82.3	69.2	75.5	73.1	71.4	75.2	78.6
日平均	28.8	24.2	27.8	25.6	25	26.3	27.5
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計/平均	
日数	26	26	24	24	27	306	
総合事業	35	39	38	42	34	421/35	
要介護	591	646	585	588	666	7585/632	
延べ人数	626	685	623	630	700	8006/667	
稼働率	68.8	75.3	74.2	75	74.1	74.6	
日平均	24.1	26.3	25.9	26.3	25.9	26.2	

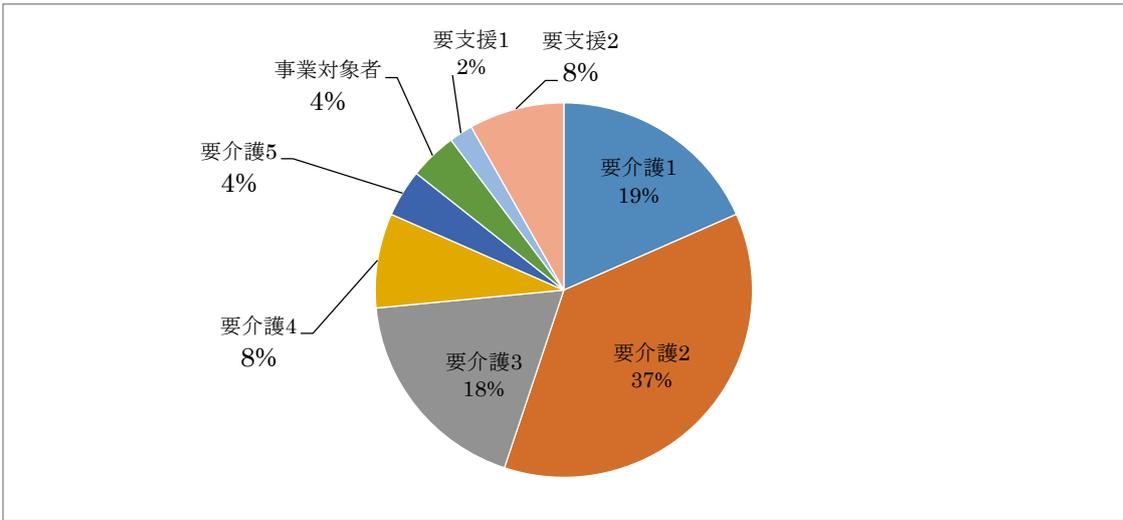
※稼働率は定員35名で算出

### (2) 利用者の性別、要介護度別、年齢別の状況

	事業対象者		要支援1		要支援2		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
65～69歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74歳	0	0	0	1	0	0	0	1	1
75～79歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80～84歳	1	0	0	0	0	0	1	0	1
85～89歳	0	1	0	0	0	3	0	4	4
90～94歳	0	0	0	0	1	0	1	0	1
95～99歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	1	0	1	1	3	2	5	7
平均年齢	84	86	0	72	92	87	88	70	7

	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
55～59 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
65～69 歳	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
70～74 歳	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	2
75～79 歳	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2
80～84 歳	1	1	0	5	0	3	1	0	0	0	2	9	11
85～89 歳	2	2	1	2	0	4	1	1	0	1	4	10	14
90～94 歳	0	2	2	5	0	0	0	0	1	0	3	7	10
95～99 歳	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	2
100 歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4	5	4	14	0	9	2	2	1	1	11	31	42
平均年齢	79	87	88	86	0	84	85	80	90	88	84	82	83





年齢別状況

介護度別状況

(3) 新規・終了状況

	新規			終了				
	要支援	要介護	計	死亡	医療機関	施設入所	その他	計
4月	0	2	2	1	0	0	0	1
5月	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	1	1	2	1	0	1	0	2
7月	0	2	2	0	0	1	0	1
8月	0	0	0	3	0	0	0	3
9月	0	3	3	0	0	3	1	4
10月	0	5	5	0	0	1	0	1
11月	0	1	1	0	0	1	0	1
12月	0	1	1	0	1	1	0	2
1月	0	1	1	1	0	0	1	2
2月	0	0	0	1	0	0	0	1
3月	0	1	1	0	0	0	0	0
合計	1	17	18	7	1	8	2	18

## 緑樹苑居宅サービス事業所（訪問介護・障害福祉）事業報告

### 1. 総括

ご家族や利用者のニーズを聞き取りながらニーズに合ったケアを実施したことや、必要な場合には担当ケアマネージャーへ報告し時間、回数等の拡充に努めることができた。

家族から「介護方法を教えてほしい」との要望を受け介護技術について助言をしたことや、家族とのコミュニケーションを大切に相談がしやすい関係作りを意識し、家族の心身の負担軽減や利用者が少しでも住み慣れた場所で快適な生活を送ることができるように丁寧で質の良い介護を提供することに努めた。

新型コロナ感染で職員 5 名、利用者 2 名の感染が確認され、職員の就業制限や利用者宅へ訪問できない状況等あったが、利用者へのサービス提供は他訪問介護員が調整し代行で対応をすることでサービス提供に支障はなかった。新規獲得 33 件に対し死亡 7 件、入院等 10 件など終了したケースが 34 件あった。

### 2. 運営状況

介護保険の目標 382 件に対し 411 件、提供時間数も 5400 時間に対し 5718 時間で目標は達成した。総合事業の目標 449 件に対し 312 件、提供時間数も 2553 時間に対し 1727 時間と目標達成できていない。要介護者の新規 21 件獲得したことで要介護の件数、時間数ともに増となった。障害福祉サービスの目標月平均件数は 15 件に対し、月平均利用者 12 名となった。新規 5 件に対し、施設入所等で 4 件が終了となったが、既存利用者の提供時間や訪問回数の拡充など行ってきたが、目標達成はできなかった。

### 3. 事業状況

#### (1) サービスの質の向上

①提供責任者は、月 1 回利用者宅を訪問し満足度やニーズの確認を行う。必用時はケアマネージャーや他職種に伝え状態やニーズに合ったサービスが提供できるようにする。

→2月に利用者へ満足度チェック行う。必要に応じケアマネージャーと調整をした。

②サービス提供時間を拡充し多様なニーズにも柔軟に対応する。

→利用者の状態や環境の変化等に対し、担当ケアマネージャーからの相談にも柔軟に対応し提供時間の拡充や利用増に努めることができた。

③利用者が気持ちよくサービスを利用するために、接遇に対する研修への参加や自己評価を行い、接遇に対し、意識の高いサービスを提供する。

→3月に自己評価を行うとともに、サービス提供責任者との面談等で接遇やサービス提供についての評価や情報等を確認した。

#### (2) 人材育成・スキルの向上

- ①登録ヘルパー募集のぼり旗を包括支援センター前に掲げる、無資格者の応募に対しては資格取得の助成を検討する。  
→登録ヘルパーの応募はなかった、ハローワークへパート職員の採用をかけたが応募はなかった。採用方法を検討する。
- ②訪問介護員個別の研修計画を策定し計画に沿った研修に派遣をすることで、一人ひとりのスキルアップを図る。  
→訪問介護員個別の研修計画を策定し研修に派遣をした、スキルアップが図れた。
- ③研修計画（新人・中堅・主任・管理者等）に沿ってネット配信研修に参加をする。  
→研修計画に沿ってネット配信研修に参加した。
- ④サービス提供責任者は登録ヘルパーと定期的に面談を行い、相談がしやすい環境作りに努める。  
→月1回、登録ヘルパーと担当サービス提供責任者が面談等を行い、利用者の状態確認や、困難ケース等相談がしやすい環境作りに努めた。
- ⑤認知症介護実践者研修及び認知症介護リーダー研修に係る経費助成を行う。  
→認知症介護実践者研修に職員を1名派遣した。
- ⑥ヘルパー定例会を月1回開催、情報の共有や勉強会、実技等を学ぶことで訪問介護員としての研修を積む（腰痛予防については機能訓練員へ講師依頼）  
→毎月の定例会にて勉強会を実施。個別研修等で困難ケースや再度確認したいケアについて実技の勉強会も併せて実施した。

### (3) 業務改善

- ①ICT化を推進し、ケアパレットの導入に向け勉強会を実施する。  
→ケアパレットの利用について職員間で検討。導入に向け再度説明を受けたいとの要望があり取り組みをしていく。
- ②スケジュール管理のデジタル化を検討する。  
→新たにスケジュール管理の方法を検討したがデジタル化はできていない。現在使用している介護ソフト上での方法を模索している。

### (4) リスクマネジメント

- ①利用者個々に想定される事故や病状の急変等に訪問介護員が適切な対応が取れるように部内会議や定例会でマニュアルの確認や対応方法を検討する。  
→定例会や部内会議で事故発生時の対応や緊急時の対応について研修を実施。  
個別の事案については、定例会、部内会議等で検討し全職員で情報を共有している。
- ②交通法規の遵守
  - ・乗車前には、アルコールチェック及び免許証携帯の確認を行い表記する。  
→出勤時にアルコールチェック及び免許証携帯の確認をしている。

- ・安全運転講習会に年1回参加し安全運転への意識を高める。
- 9月には外部講師を招き安全運転講習会を実施。全職員が参加した。
- ③事故やヒヤリハットがでた時は事業所全体で情報を共有し再発防止に努める。
- 事故やヒヤリハットが出た場合に部内会議で情報を共有。再発防止について検討し事故に繋がらないようにした。

(5) 新型コロナウイルス感染症対策

- ①職員は出勤時及び利用者宅訪問前に体温を測定し、記録をする。
- 出勤前と出勤時に体温測定を行い記録している。また、利用者宅へケアに入る前には利用者への体温測定の協力をお願いしている。
- ②マスクは常時着用、フェイスシールド、ガウン及びアルコール消毒液の携帯。
- 利用者宅へ向かう前に物品の確認をし、物品の忘れ物がないようにしている。
- ③ケアに入る前には利用者の体温の測定、室内換気、マスク着用を促す。
- 利用者宅へケアに入る前には利用者への体温測定の協力とマスク着用の促しや、換気についても協力をお願いしケアに入っている。
- ④マニュアルに沿って関係機関と連携を取り感染拡大防止に努める。
- コロナ陽性の確認がされた利用者及び職員に対し、全職員で情報を共有し、関係機関と連携しながら感染拡大防止に努めた。

(6) BCP（災害発生時と感染症発生時における事業継続計画）を策定する。

- ・災害発生時や感染症発生時も事業継続や早期回復を図る。
- 災害発生時における事業継続計画を一部作成。次年度に完成する予定。

5. 行事・活動等

(職員研修、勉強会等)

月	場 所	研修・勉強会名	参加人数
4月	デイサービス	課内勉強会 「事故再発防止について」	18名
5月	デイサービス	課内勉強会 「感染対策マニュアル」 実技指導 「防護服、手袋脱着法」	18名
6月	コロナ感染拡大 自己学習	課内勉強会 「熱中症、食中毒を防ぐ」 実技指導 「自分を守る介助術」	18名
7月	コロナ感染拡大 自己学習	課内勉強会 「緊急時の対応」 実技指導 「腰痛防止術」	18名
8月	デイサービス	課内勉強会 「倫理及び法令遵守、プライバシー保護」	18名

9月	デイサービス	課内勉強会 「安全運転講習会」	18名
10月	デイサービス	課内勉強会 「認知症者とのコミュニケーション」	18名
11月	デイサービス	課内勉強会 「接遇を見直そう」 実技指導 「介護食トロミについて」	18名
12月	デイサービス	課内勉強会 「高齢者のバイタルサイン」 実技指導 「車椅子から便座への移乗」	18名
1月	デイサービス	課内勉強会 「虐待に関する理解」	18名
2月	デイサービス	課内勉強会 「ハラスメント対策メンタルヘルスについて」 実技指導 「更衣介助」	18名
3月	デイサービス	課内勉強会 「身体拘束廃止について」	18名

## 6. 利用状況について

### (1) 年間実績 (利用日数)

	介護保険				障害福祉サービス			
	訪問介護		総合事業サービス		居宅サービス		移動支援	
	利用者数	提供回数	利用者数	提供回数	利用者数	提供時間	利用者数	提供回数
4月	29	400	27	158	13	253	1	5
5月	35	412	30	171	13	261	1	4
6月	31	425	25	143	12	249	1	5
7月	35	438	23	117	12	245	2	6
8月	35	473	23	134	11	247	2	9
9月	36	502	26	148	12	243	2	13
10月	36	465	27	148	13	266	2	14
11月	35	458	28	168	14	279	2	16
12月	36	460	24	130	13	257	2	16
1月	35	466	25	120	12	269	2	12
2月	35	436	25	126	11	239	2	10
3月	32	449	26	155	11	267	2	8

合計	410	5384	309	1718	147	3075	21	118
平均	34	448	25	143	12	256	2	10

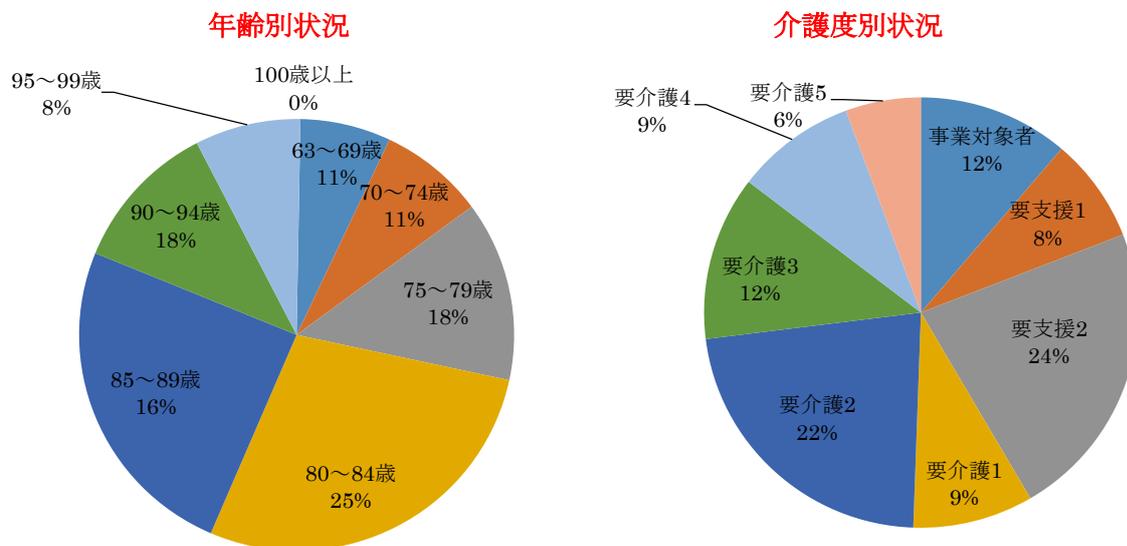
(3) 利用者の性別、要介護度別、年齢別の状況

総合事業

	事業対象者		要支援1		要支援2		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
63～69歳	1	0	0	0	0	0	1	0	1
70～74歳	1	0	1	0	0	3	2	3	5
75～79歳	1	1	0	1	1	0	2	2	4
80～84歳	1	3	1	2	1	1	3	6	9
85～89歳	0	0	1	0	1	7	2	7	9
90～94歳	0	1	0	1	0	2	0	4	4
95～99歳	0	1	0	0	0	4	0	5	5
100歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4	6	3	4	3	17	10	27	37
平均年齢	75	86	79	83	79	77	78	80	79

要介護者

	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
55～64歳	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
65～69歳	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	3	4
70～74歳	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	2
75～79歳	1	1	0	4	0	0	1	1	0	0	2	6	8
80～84歳	0	1	1	4	2	2	2	3	0	1	5	11	16
85～89歳	1	1	1	5	1	2	0	1	1	0	4	9	13
90～94歳	1	1	1	1	0	2	0	0	0	0	2	4	6
95～99歳	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	2
100歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	3	5	3	17	4	7	3	5	2	3	15	37	52
平均年齢	86	81	87	82	80	83	80	82	79	82	82	82	82



(3) 新規・終了状況

介護保険

	新規			終了				
	総合事業	要介護	計	死亡	医療機関	施設入所	その他	計
4月	1	1	2	0	0	2	1	3
5月	2	5	7	1	4	1	2	8
6月	0	0	0	0	2	1	0	3
7月	1	5	6	1	0	2	0	3
8月	0	1	1	0	0	0	1	1
9月	4	2	6	1	1	1	0	3
10月	1	2	3	1	0	0	0	1
11月	1	1	2	1	0	0	4	5
12月	0	1	1	1	0	1	0	2
1月	0	2	2	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	3	0	1	4
3月	2	1	3	1	0	0	0	1
合計	12	21	33	7	10	8	9	34

障害福祉サービス

	新規		終了				
	支援費	計	死亡	医療機 関	施設入 所	その他	計
4月	1	1	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	1	1
6月	0	0	0	0	1	0	1
7月	1	1	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0
10月	1	1	0	0	0	0	0
11月	2	2	0	0	0	1	1
12月	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	1	1
3月	0	0	0	0	0	0	0
合計	5	5	0	0	1	3	4

## 緑樹苑指定居宅介護支援事業所 事業報告

### 1. 総括

令和4年度も昨年同様、新型コロナウイルスの影響を受けサービス事業所（有料老人ホーム13件、通所サービス29件、短期入所生活介護3件、訪問介護1件）が休業したことで、計画通りにサービス利用ができない利用者に対し自宅介護の状況把握、代替サービスの提案、調整など柔軟に対応をした。医療機関や施設においては面会の自粛もあったが、電話での聞き取りやFAX等で関係機関からの情報収集を充実したことから利用者支援へ大きな影響はなかった。介護支援専門員が4月に1名、8月に1名の感染があった、在宅ワークの体制に切り替え業務を実施したことから他職員や利用者への感染拡大はなかった。

### 2. 運営状況

令和4年度は、平均プラン件数が122件（介護106件、予防・総合16件）目標を立て各関係機関への営業活動を行っていたが、新型コロナウイルスの影響で介護サービスを自粛しサービスに繋がらなかったケースや介護支援専門員1名が退職し4月から7月まで常勤4名から3名体制、8月から4名体制になったが105件（介護88件、予防・総合17件）で目標を達成することができなかった。職員の増減により特定事業所加算ⅡからⅢへ加算変更になった月が5ヵ月あったことから加算収入の見込み額も減になった。12月に沖縄市介護保険課より運営指導を受ける、指摘事項（運営基準減算）はなかった。

### 3. 事業状況

#### (1) サービスの質の向上

〈目的〉

介護保険制度や地域資源を活用し自立した日常生活が送れるように支援していく。

- ① 利用者の意向・選択に基づき自立した生活ができるサービス計画の作成に努める。  
→利用者の意向を聞き取り自身で選択することを支援し個々の能力に応じた生活を営むことを目標にケアプランの作成を行った。
- ② 地域資源を有効に活用し包括的に提供されるように努める。  
→民生員に見守りや外出同行支援を依頼したことや認知症安心登録や配食サービスを居宅サービス計画に位置づけた。
- ③ 関係機関と連携を図りスムーズに支援が行えるように努める。  
→家族と疎遠状態や認知症等の困難ケースに関しては地域包括支援センターや医療機関と連絡調整・連携を図り、スムーズに支援を行った。
- ④ 法人内外の研修に参加し、情報や専門的知識の習得に努める。  
→法人主任研修、ファローアップ研修や介護支援専門員沖縄支部・県介護支援専門員や中部地区医師会主催の研修に参加し専門的な知識の習得に努めた。

- ⑤ 24 時間、連絡できる体制を確保し、緊急時の相談対応に努める。  
→各介護支援専門員は 24 時間携帯電話を所持し年 28 回、緊急時の相談や連絡に対応した。

## (2) 人材の確保及び育成

### 〈目的〉

法人内外の研修に積極的に参加し自己の資質を磨き、介護支援専門員としての専門性の向上に努める。

### 〈内容〉

- ① 各介護支援専門員の経験値に応じた研修計画を策定しスキルアップを図る。  
→各介護支援専門員の経験値に合った「研修目標」「内容」を踏まえた研修計画を策定した、計画に沿って研修に参加し援助技術のスキルアップに努めた。
- ② 研修終了後は学んだ内容を事業所内で情報し情報共有する。  
→研修後、事業所内で報告会を開催し情報共有を行った。
- ③ 週 1 回以上の利用者情報伝達会・勉強会を行い、困難ケース等について事業所全体で問題の解決方法を検討する。また、他法人居宅介護支援事業所との事例検討会を開催し多角的な視点で問題解決に努める。  
→事業所内で週 1 回以上会議を行い、各ケースについて一人が悩み考えるのではなく、事業所全体で検討する事で問題解決に努めた。他法人との事例検討会（1 回開催）ではそれぞれの事業所で異なった支援の視点があり新たな発想・気づきに繋がった。
- ④ 月 1 回、職員相互でケアプランチェックを行い、プランニングの質の向上や運営指導基準減算がないようにする。  
→月 1 回、職員相互でケアプランチェックを行い、プランニングの質の向上に努めた。12 月に「沖縄市介護保険施設等運営指導」を受けた、結果指摘事項はなく「介護保険法を遵守している」との講評であった。
- ⑤ 地域包括支援センターが開催する「自立支援・地域ケア会議」の事例提供や検討会へ参加し多機関、多職種からの意見を受け問題解決に繋げる、  
→沖縄市自立支援地域ケア会議に 3 回事例を提供し、専門職からの指導・助言を受けたことで利用者の課題解決や QOL の向上に向けた支援方法を学んだ。
- ⑥ 介護支援専門員実務者研修を受け入れ、介護支援専門員育成や介護支援専門員人材確保に繋げる。  
→新型コロナウイルス感染症予防対策のため、介護支援専門員実務研修にかかる臨時的な取扱い（実習免除）になり、実習生の受け入れがなかったことから人材確保には繋がらなかった。

### (3) 業務改善

#### 〈目的〉

ICT を活用し業務負担の軽減を図る。

#### 〈内容〉

- ① 利用者や家族へタブレット端末を活用し写真や動画で説明し情報共有する。  
→タブレット端末を活用し利用者や家族へ動画や写真等でよりわかりやすく介護保険の説明が行えた。利用者の状態等動画を通し分かりやすく簡潔に説明ができた。
- ② タブレット端末を活用し外出先での会議録の作成や書類を複写する事で効率化を図る  
→外出先でタブレット端末を活用し書類等を複写する事で業務の効率化に繋がった。

### (4) リスクマネジメント

#### 〈目的〉

事故・トラブルを未然に防止し利用者が安心してサービスを利用することができる。

#### 〈内容〉

- ① 介護保険制度や利用料金など丁寧に説明し誤解が生じないように努める。  
→介護保険制度や利用料金をサービス開始前に利用者、家族へ書面等で提示し説明することで誤解が生じないように努めた。
- ② 個人情報分類等について鍵のかかる書類に保管し個人情報漏洩防止を図る。  
→利用者の台帳は鍵付き書棚に収納し個人情報漏洩防止に努めた。
- ③ 利用者、家族、サービス事業者、保険者との連携を常日頃から取りヒヤリハット・苦情や相談には敏速に対応する。事業所内で周知及び改善に向けて話し合いをする。  
→ヒヤリハット 4 件 事故 0 件、ヒヤリハットが発生した時は事業所内で検討会を開催し、発生原因や予防策等会議を開催し事故に繋がらないように努めた。
- ④ 毎朝の車両点検を行い、不備があれば早急に対応する。  
  
→毎朝の点検やオイル交換や点検を定期的に依頼し車両のトラブル防止に努めた。
- ⑤ 出勤時には、アルコールチェック及び運転免許証の確認をする。  
→出勤時、アルコールチェック及び運転免許証を確認・記録することで安全運転への意識を高めた。
- ⑥ 老朽化している車両（1 台）に対しては、購入及びリースを検討する。  
→車両の状態が良いため購入やリースは止め車検に変更した。
- ⑦ BCP（災害発生時における業務継続計画）の策定をする。  
→BCP（災害発生における業務継続計画）を作成した。

## (5) 感染症の予防への対策・取組

### 〈目的〉

感染症に関する最新情報を収集し動向状況を踏まえた感染症対策を行う。

### 〈内容〉

- ① 職員は出勤前・出勤時、休憩前に検温し検温簿に記録をする。  
→出勤前・出勤時・休憩前に検温・体調確認を行い記録した。発熱や風邪等の症状（倦怠感・咳・腹痛・嘔吐等）がある場合は報告し出勤をしない等、感染対策を行った。
- ② マスク着用・手洗い、手指消毒を徹底し3密の回避に努める。  
→マスク着用、手指消毒、3密の回避等を常に意識して行い感染防止に努めた。
- ③ 毎日、事業所内や車両内を消毒する。事業所内は換気に徹底する。  
→事業所内・車両内の消毒・換気を徹底し感染予防対策に努めた。
- ③ 事前に利用者や家族の健康状況を確認し訪問の有無を柔軟に対応する。  
→訪問前に電話連絡し利用者や家族の体調等を確認し感染防止に努めた。本人、家族より訪問自粛の依頼を受けた時は電話にて情報交換を実施した。
- ④ 感染状況に応じて在宅ワークを検討し感染拡大防止と事業所の継続を図る。  
→4月、8月、事業所内にて感染者が発生。在宅ワークへ変更し感染者が増える事なく業務が継続できた。

### (職員研修)

月	場 所・日	研 修 名	参加人数
4月			0人
5月	緑樹苑会議室 オンライン (27日)	令和4年度 沖縄県介護支援専門員協会 沖縄市支部総会	3人
6月	緑樹苑会議室 オンライン (29日)	令和4年度 第1回 沖縄県介護支援専門員協会 沖縄市支部 研修会	1人
7月			0人
8月	緑樹苑会議室 オンライン (18日)	令和4年度 第1回 沖縄県介護支援専門員協会 沖縄市支部 代表員会	1人
9月	緑樹苑会議室 オンライン (13日)	令和4年度 沖縄県多職種連携ケアマネジメント研修	1人
	緑樹苑居宅介護支援事務所 オンライン (22日)	令和4年度 沖縄県介護支援専門員協会 沖縄市支部研修「ケアマネジャーのICTの実例報告」	4人
10月	緑樹苑会議室 オンライン (13日)	令和4年度 第2回 沖縄県介護支援専門員協会 沖縄市支部 代表員会	1人

11月	緑樹苑居宅介護支援事務所 オンライン（21日）	令和3年度 沖縄県介護支援専門員スキルアップ研修・「令和3年度 介護保険改正 Q&A と介護保険最新情報」	2人
12月	結婚式場 N.B.C（1日）	令和4年度 中部地区12市町村 在宅医療・介護推進事業「事例を通して学ぶ看取り支援の大切なこと」	1人
1月	みどり学童クラブ オンライン（11日）	令和4年度 緑樹会 フォローアップ研修	1人
	緑樹苑会議室 オンライン（24日）	ケアプランデータ連携システム説明研修会	3人
2月	みどり学童クラブ オンライン（8日）	令和4年度 緑樹会 係長・主任研修	1人
3月			0人

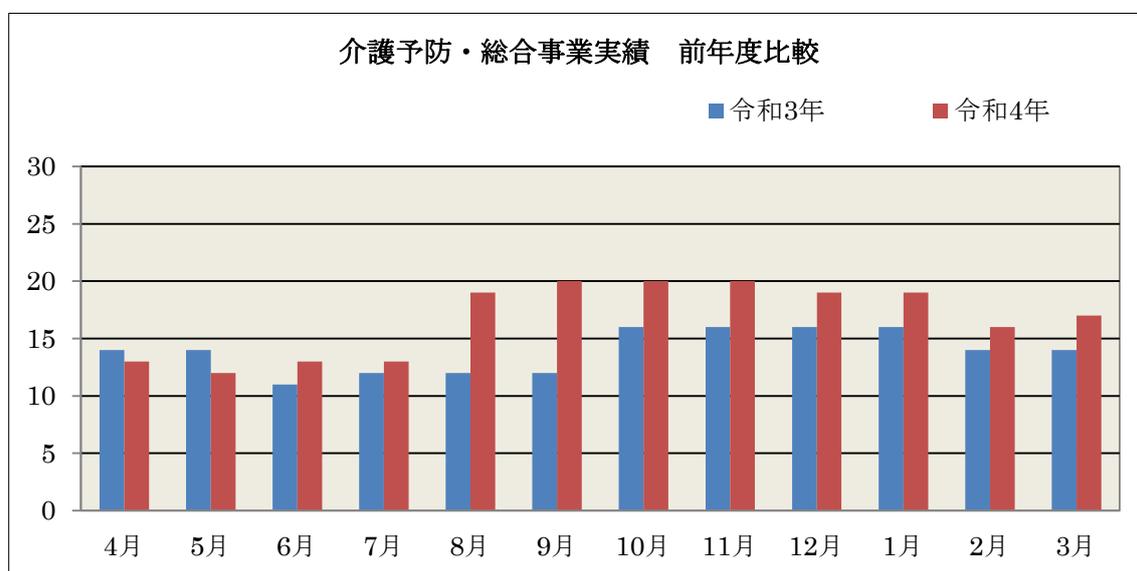
**（定期部署内勉強会）**

月	日	勉強会名	参加人数
4月	4日、12日、19日、26日	事例検討会	3人
5月	3日、10日、17日、24日、 31日	事例検討会・地域ケア会議報告	3人
6月	7日、13日、21日、28日	事例検討会・地域ケア会議報告	3人
7月	5日、12日、20日、26日	事例検討会	3人
8月	2日、9日、16日、22日、 30日	事例検討会	4人
9月	5日、13日、20日、26日	事例検討会・地域資源情報の把握	4人
10月	3日、11日、18日、25日	事例検討会・介護保険最新情報の把握	4人
11月	1日、8日、15日、22日、 28日	事例検討会	4人
12月	5日、12日、19日、26日	事例検討会・地域ケア会議報告	4人
1月	4日、9日、17日、24日、 30日	事例検討会・医療保険と介護保険給付併用サービスについて	4人
2月	7日、14日、20日、28日	事例検討会	4人
3月	7日、13日、21日、28日	事例検討会	3人

利用状況について

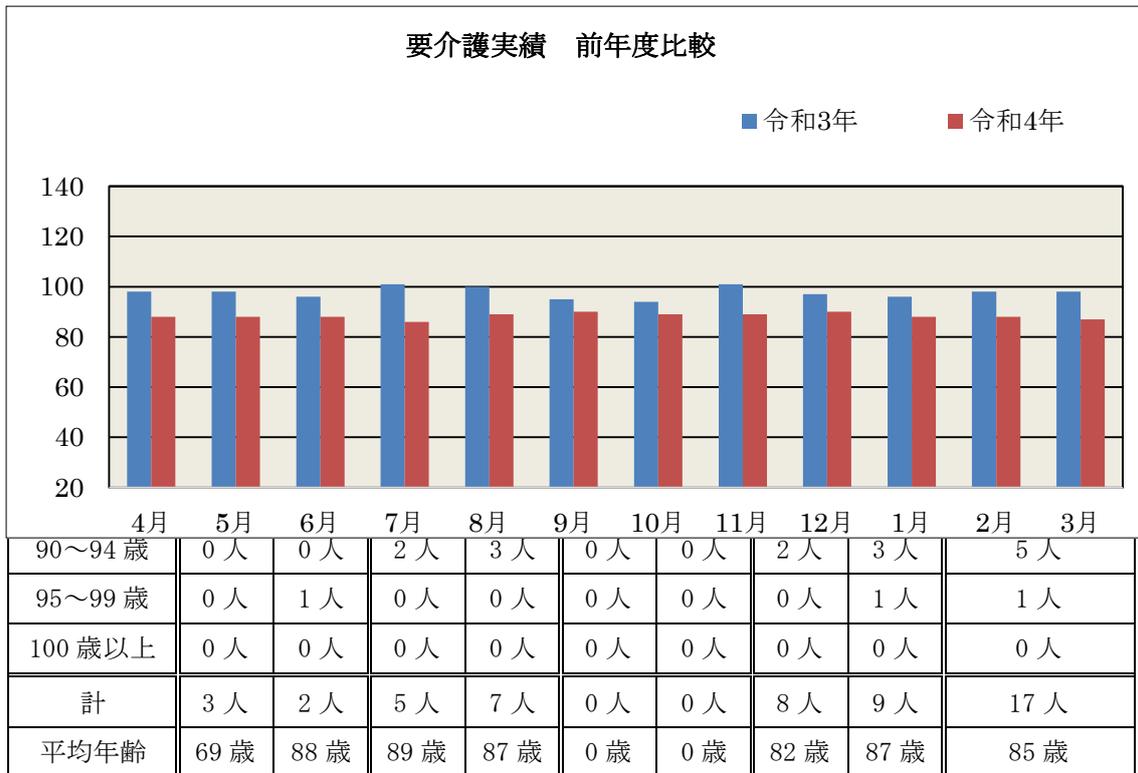
(1) 年間実績 (介護予防・総合事業)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
介護予防	12人	11人	12人	12人	17人	18人	18人
総合事業	1人	1人	1人	1人	2人	2人	2人
実績人数	13人	12人	13人	13人	19人	20人	20人
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
介護予防	18人	18人	17人	14人	15人	182人	
総合事業	2人	1人	2人	2人	2人	19人	
実績人数	20人	19人	19人	16人	17人	201人	



(2) 年間実績 (要介護度 1~5)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
利用者数	90人	91人	91人	88人	89人	90人	90人
実績人数	88人	88人	88人	86人	89人	90人	89人
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
利用者数	89人	92人	91人	91人	91人	1,083人	
実績人数	89人	90人	88人	88人	87人	1,060人	

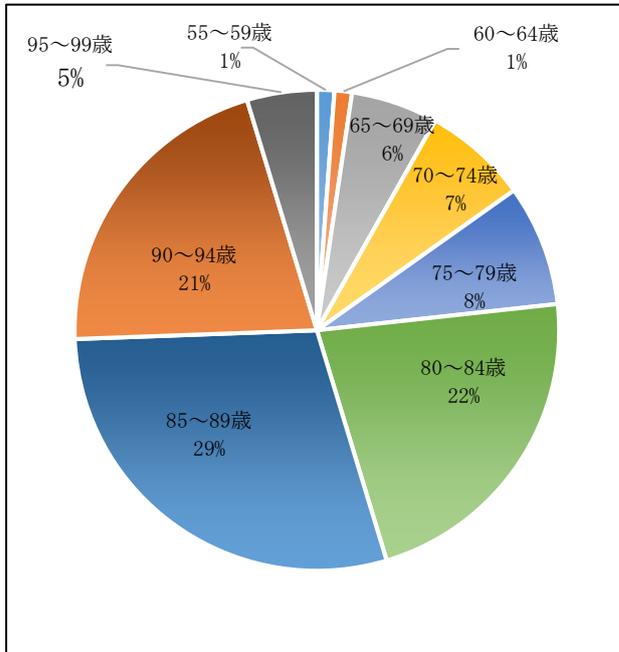


(3) 利用者性別・要介護度別・年齢別状況 (要支援 1.2 事業対象者) R5年3月現在

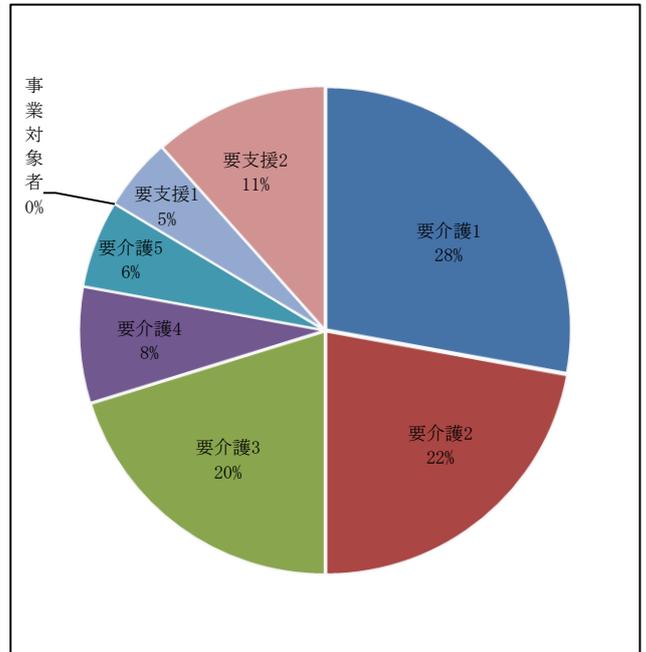
年齢	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
55～59歳	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人
60～64歳	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人
65～69歳	1人	0人	0人	1人	0人	1人	2人	0人	0人	0人	3人	2人	5人
70～74歳	1人	1人	1人	0人	1人	1人	1人	0人	0人	0人	4人	2人	6人
75～79歳	1人	2人	1人	1人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	2人	5人	7人
80～84歳	2人	3人	1人	4人	4人	3人	1人	0人	0人	1人	8人	11人	19人
85～89歳	7人	5人	2人	3人	0人	5人	0人	1人	2人	0人	11人	14人	25人
90～94歳	1人	4人	1人	5人	1人	4人	0人	1人	0人	1人	3人	15人	18人
95～99歳	0人	1人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	4人	4人
100歳以上	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	1人
計	13人	16人	6人	17人	6人	15人	4人	4人	2人	4人	31人	56人	87人
平均年齢	83歳	86歳	83歳	83歳	82歳	84歳	73歳	94歳	86歳	87歳	82歳	85歳	84歳

(要介護1～5) R5年3月現在

年齢別状況



介護度別状況



## 沖縄市地域包括支援センター西部北 事業報告

### 1. 総括

西部北圏域（八重島・センター・胡屋・園田・中の町）の総人口は14,832人・高齢者数4,350人、高齢化率29.30%、後期高齢化率15%で高齢化率・後期高齢化率の割合が他圏域と比較して高い圏域となっている。

2年に続くコロナ禍の影響において、高齢者サロンや集いの場、交流の場の地域活動が制限される中、前年度の基本チェックリスト（介護予防と生活状態の悪化を防ぐ目的で実施）の結果では認知・運動器・うつ予防の順に生活機能低下等の課題が挙がった。

令和4年度は基本チェックリスト課題の把握から身体的機能や認知機能の低下予防に対し、個々の状態に応じた適切な支援を実施するため、感染予防対策を講じながら地域資源の把握と地域住民への情報提供を行い健康維持・介護予防・重度化防止を図り地域で安心した生活が継続できるように総合相談・連携に取り組んだ。

広報誌「ぬちぐすい新聞」の1年間継続発行と法人のHPや広報誌「竹とんぼ」を活用し西部北圏域の各自治会福祉連絡会、老人クラブの集会、地域住民や事業所、関係団体の定例会に参加し、法人事業の活動状況や包括支援センター事業内容・地域資源の情報等を発信・周知を行った。

### 2. 運営状況

令和4年度におけるプラン件数は包括西部北の件数は1,533件、委託先の件数は426件となった。当初の目標1,650件数と見込んだ計画のプラン件数値の対前年度は包括西部北の件数は117件減少、委託先の件数は10件減少となった。

新規契約者87人。ケアマネジメントC（短期集中リハビリ教室）は30人。要介護が見込まれるケースや区分変更のケースについては委託事業所での調整を行った。西部北プラン件数・実績（前年度比較で117件減少）となった。

実績に移行できない内容として、新型コロナ感染予防で利用サービスを自粛する・体調不良・入院中・区分変更・終了・本人意向や家族意向によるサービス拒否の内訳となる。

※（9）指定介護予防支援事業

### 3. 事業状況

①担当地区（胡屋・中の町・園田・中央・八重島）自治会の福祉連絡会、第2層協議体に参加し法人事業（専門職種、在宅福祉サービス、介護事業所）との関係性を継続できるように支援する。

⇒

❖各自治会 <福祉連絡会>

	胡屋	中の町	センター	園田	八重島
4月	生活支援 (SC)	SC	SC	SC	中止
5月	SC	実態把握員	認知症支援員	実態把握員	SC
6月	SC・認知支援	中止	認知症支援員	s c・認知支援員	中止
7月	SC・認知支援	中止	SC・認知支援	SC・認知支援	SC・認知支援
8月	なし	SC・認知支援	SC	実態把握員	中止
9月	なし	SC	SC	SC	SC・社福
10月	SC・実態把握	実態把握員	SC	中止	SC・社福
11月	SC・実態把握	SC・認知支援	SC	SC・認知支援	SC・社福
12月	SC	SC	実態把握員	SC	SC・社福
1月	SC・実態把握	SC・実態把握	SC	SC・認知支援	SC
2月	SC	SC・実態把握	SC	実態把握員	SC
3月	看護師・実態		社福・看護師・実態	実態把握員	
合計	10件	9件	12件	11件	8件

❖第2層協議体

	開催件数	開催月
胡屋	0件	—
中の町	1件	9月
センター	1件	3月
園田	0件	—
八重島	1件	9月

②地域の高齢者・住民が積極的に参加できるように地域活動支援や見守りサポーター養成講座と認知症予防等に関する講座を開催できるように環境整備し介護予防の啓発を図る。

⇒見守りサポーター養成講座は法人会議室にて8月、9月、11月、12月、1月、2月に開催を行った。認知症予防等に関する講座は中の町自治会（願寿会）で12月、1月に開催を行った。

③学生の人材育成と職員人材の将来的な確保として、大学・専門学校の実習生を受け入れ法人の各介護施設・介護事業所（特養ホーム、ケアハウス、通所介護、訪問介護、居宅介護事業所）と連携し学生の教育、育成に取り組む。

⇒沖縄国際大学、沖縄総合医療学院の「相談援助実習」は新型コロナウイルス感染予防対策の観点から実習生の受け入れは中止となった。

具志川看護学校・地域在宅看護補実習として、9月4名、11月2名の臨地実習を行った。

#### 4. 業務内容

##### (1) 総合相談支援業務

##### ① 地域におけるネットワークの構築

初期段階での相談対応を行い中核的機関としての役割として必要に応じて関係機関と連携し様々な相談内容について対応した。専門職によるチーム支援を必要とする高齢者を見出し保健・医療・福祉・介護サービスや医療サービス等を適切に利用できるように、介護事業者、医療機関、民生児童委員協議会、社会福祉協議会等との関係機関と連携し高齢者支援のためにネットワーク構築を図った。

##### ② 介護予防等把握

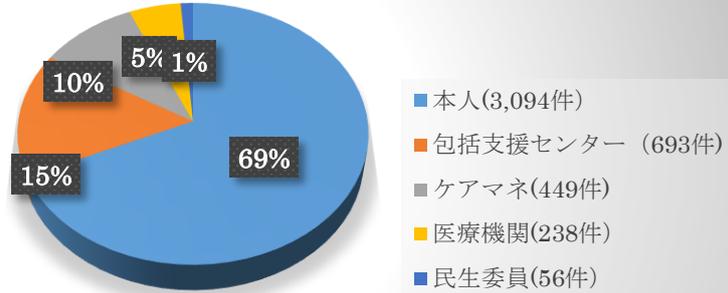
実態把握	延べ件数	実人数
令和3年度実績	531人	384人
令和4年度実績	547人	331人

沖縄市介護保険課からの訪問リストを基に65歳以上、かつ介護認定を受けていない独居高齢者、高齢者のみの世帯、同居世帯を訪問し基本チェックリストや介護予防が必要な高齢者の把握を行った。新型コロナの感染状況に伴い訪問業務とポストイング、不在時は不在票・基本チェックリスト・返信用封筒を投函し把握に取り組んだ。実態把握の啓発活動の一環として生活支援コーディネーターと連携しながら、地域の通いの場やサロン等でも基本チェックリストを実施した。

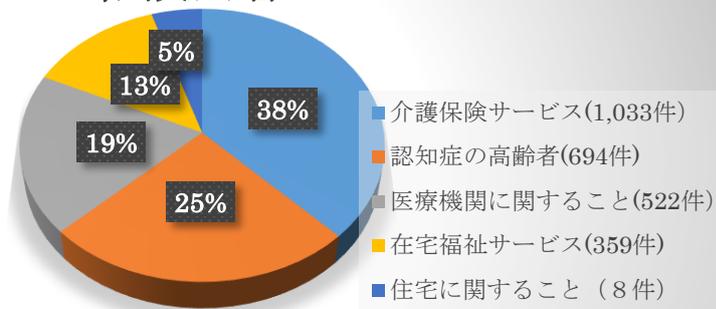
##### ③ 総合相談支援

総合相談件数	実人数	延べ件数
令和3年度実績	2,403人	5,058件
令和4年度実績	2,299人	6,103件

## 相談者続柄



## 相談内容



相談実績は（相談者続柄別）：本人が最も多く、順に家族、地域包括支援センター、介護支援専門員、医療機関が多かった。（相談内容別）：介護保険サービスに関する事、認知症の高齢者に関する事順に医療機関に関する事、在宅福祉サービスに関する事、住宅に関する事の相談が多かった。本人、家族、地域からの相談を円滑に受け入れ介護保険、適切な制度、関係サービスにつなぐとともに継続的な相談支援を行った。

### （２）権利擁護業務

- ① 成年後見制度の利用促進 ②高齢者虐待への対応③消費者被害の防止

高齢者虐待の防止及び対応

虐待認定	虐待認定に至らなかった	虐待ではないと判断した	相談件数
1	2	3	15

老人福祉施設等への措置の支援

老人福祉施設等への措置の支援	支援件数
0	0

相談・通報者の内訳：本人 10 件、家族 2 件、介護支援専門員 3 件。虐待認定・被虐待

者との続柄：被虐待者との関係では、息子が1件となっている。虐待の対応策：本人、家族、関係者からの情報収集し事実確認事例が1件となっている。②虐待の対応においては早期発見・早期対応とし「高齢者虐待対応のマニュアル」に基づき速やかに事実確認・状況を把握し関係機関と連携を図り対応した。虐待認定に至らないケースについては、担当ケアマネを通じ状況確認しながら、介護保険サービスの見直し、施設入所や継続的な見守り・訪問等により虐待防止に努めた。権利擁護業務の内、①成年後見制度相談が9件となっている。在宅生活が困難になり施設入所調整、病院調整、金銭管理支援等を行った。③消費者被害の防止・消費者トラブルの情報発信は沖縄県消費生活センターのパンフレットを西部北事務所に回覧・掲示・案内を行った。

### (3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

基幹型包括支援センター、各地域型包括支援センターと協力し、介護支援専門員の資質向上を図るための研修会や勉強会を開催した。介護支援専門員からの相談（来所・電話）に対し介護保険・認知症の高齢者・在宅福祉サービスに関するアドバイスや地域資源の紹介・インフォーマルサービスを活用できるように第2層生活支援コーディネーターと連携した。介護支援専門員の対応する困難ケースには主治医師連携や必要時に同行訪問を行い、包括的・継続的ケアマネジメントを介護支援専門員が実践できるようにサポートを行った。

### (4) 在宅医療・介護連携推進事業に関する協力業務

中部地区医師会（在宅ゆい丸センター）主催による「在宅医療・介護連携推進会議」への参加や多職種研修会に参加した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のためZOOMによりオンラインでの会議参加となった。医療と介護を必要とする高齢者が住み慣れた地域で安心した暮らしが続けられるよう、また本人や家族の意向を尊重した医療と介護のサービスが提供できるように多職種連携の体制構築を図った。

### (5) 生活支援体制整備事業に関する協力業務

自治会の福祉連絡会、老人クラブ定例会、高齢者サロン、地域の集いの場にて地域住民と情報交換を行い必要時「第2層協議体」を開催し、課題解決に向けて住民や関係者と協議を行った。「がんじゅうポイント活動」は活動者のマッチング件数3件依頼を受けたがゴミ出しやクーラー掃除、草刈り等に対しマッチング調整できなかった。

### (6) 介護予防ケアマネジメント

日常生活総合事業対象者及び要支援者に対して、介護予防ケアマネジメントを行い高齢者が有する能力の応じ自立した生活が営むことができるように取り組んだ。地域資源等インフォーマルサービスも含めた必要なサービスをマネジメントしている。新規の対象者

には短期集中リハビリ教室・ハイサイ訪問等へ繋げられるように支援を行った。  
 総合事業サービス調整会議から30件を自立支援に資したサービス調整を行っている。  
 介護予防支援及び介護予防ケアマネジメントの業務一部委託については新規の利用者を優先的に調整した。ケアプラン確認の中でサービスの必要性やインフォーマルサービス等の検討等を含め確認を行った。介護予防ケアマネジメントが自立支援に資するよう自立支援地域ケア会議を開催した。

(7) 指定介護予防支援事業

プラン件数	ケース件数	1人あたり平均
令和3年度実績	1,637 (予防1,406+総合228)	39人 (予防33+総合6)
令和4年度実績	1,533人 (予防1,309+総合214)	36人 (予防31+総合5)

地域包括西部北 (プラン件数)

	初回		継続		合計	
	R3	R4	R3	R4	R3	R4
事業対象者	5	4	223	210	239	214
要支援1	12	21	547	524	559	545
要支援2	18	15	829	749	847	764
計	35	41	1,602	1,492	1,637	1,533

委託先 (プラン件数)

	初回		継続		合計	
	R3	R4	R3	R4	R3	R4
事業対象者	1	1	10	6	11	7
要支援1	4	4	140	155	144	159
要支援2	7	13	273	246	280	259
計	12	18	424	408	436	426

(8) 認知症総合支援事業

認知症の相談支援や支援体制の構築として、対象者の自宅訪問や病院受診の対応を実施した。認知症に関する普及啓発活動として認知症パネル展(3回)を開催した。認知症の人を支援する関係者間の連携として感染防対策を取りながら認知症サポーター

養成講座（2回）を開催した。

自宅訪問	109件	病院受診	12件
認知症パネル展			
沖縄市立図書館	9月15日～10月14日	中の町自治会	10月20日～29日
FM コザ	2月14日～3月14日		
認知症サポーター養成講座			
朝日生命	4月21日	中の町小学校	11月21日
給食センター（緑樹会）	3月28日		

#### （9）地域ケア会議推進事業

総合相談、介護予防ケアマネジメント、介護支援専門員からの相談、認知症高齢者に関する相談等に対し個別事例の解決を目的とした個別地域ケア会議や自立支援方法や課題の解決策を検討する自立支援地域ケア会議を開催した。

地域の高齢者が健康でその人らしい暮らしができるように「介護予防について」考えるとテーマに自治会会長、老人会長、民生委員、地域関係者で圏域別地域ケア会議を実施した。

##### 地域ケア会議の回数

個別地域ケア会議	圏域別地域ケア会議
4	1

##### 自立支援地域ケア会議の回数

西部北主催	基幹型主催
3	3

#### （10）一般介護予防事業

一般高齢者に対する支援は、介護予防として住み慣れた地域で元気でいきいきと暮らせるために沖縄市の介護予防教室（高齢者パワーアップ教室、高齢者元気教室）や自治会のいきいき百歳体操に参加を推奨した。

##### その他・高齢者在宅福祉サービス

高齢者通院支援サービス事業、緊急通報システム設置事業、高齢者見守り体制整備事業（食の自立支援事業・配食サービス）に繋げた。

高齢者通院支援サービス事業	9件
緊急通報システム設置事業	3件
高齢者見守り体制整備事業（緊急医療情報キット配布）	0件
食の自立支援事業（配食サービス）	9件
ゆんたくコール	0件

在宅福祉サービス事業及び生活支援に係るサービス事業は、介護予防等把握業務の実態把握調査の繋ぎから一般介護予防事業、サロン、関係機関（保護課、社会福祉協議会、介護支援専門員、障がい者相談員、病院相談員、他支援機関）に情報共有し連携を行った。在宅福祉サービス調整会議から一人暮らしの高齢者・高齢世帯の方に対し日常生活支援（通院サービス事業、配食サービス事業、見守り、安否確認等）の支援に繋げた。

## みどり学童クラブ 事業報告

### 1. 総括

令和4年度も新型コロナウイルスの影響を受け、小学校では学級閉鎖があったことや学童クラブ内でも8月にはコロナ感染者数の拡大があり2日間クラブを閉鎖した。児童の感染者は27名、家族の感染者は29名であった。1月にはインフルエンザが流行し感染者が10名、新型コロナウイルスとインフルエンザの両方に感染した児童が6名いた。学童クラブでの感染を懸念し長期間利用自粛後退会をする児童も1名いた。夏休みは社会見学や遠足等の園外活動を計画していたが新型コロナウイルス感染者が増えたことや学童クラブの閉鎖もあり実施できなかつたが、児童の精神面を考慮しながら裏庭で遊ぶ時間を増やしたことや児童に人気のあるゲームやボールを購入し屋内外の活動が充実できるように努めた。職員の新型コロナウイルス感染者は3人であった。

### 2. 運営状況

4月は46名で事業開始、令和5年3月時点の児童数は43名であった。

事業目標の「年度を通し児童在籍40名以上を目標とする」は達成することができた。コロナ感染対策・コロナ特例交付金で補助金が増額したことや、低学年児童が65%を占め前年度より保護者負担分の収入は増となった。新型コロナウイルス感染者や濃厚接触者になりクラブを休会した児童に対しても通常の保育料を受領（子ども家庭課より保護者へ日割りで保育料返還あり）したことでコロナによる保育料収入の減はなかつた。退会は6名（部活動入部2名・家庭保育4名）、年度途中3名の児童が入会した。

### 3. 事業状況

#### (1) サービスの質の向上

##### <目的>

どの学年の児童にとっても学童クラブが楽しく安心感のある居場所になるような環境作りに取り組む。

##### <内容>

#### ①施設環境について

- ・写真や児童の作品を展示するなど、保護者にも活動内容が伝わる環境作りを行う。  
→児童と指導員が折紙等で一諸に作品を作り、階段壁に装飾をした。児童の活動写真を掲示し学童クラブでの活動状況を保護者に伝えた。
- ・児童の興味・関心度を捉えた学習や遊びを展開する（端末機・凶鑑・本等の購入）  
→児童に人気がある遊びを聞き取りボールやおもちゃ・ゲーム等を購入した。ダンスの好きな児童が集まり端末機の動画を見ながらダンスの練習を行いデイサービスで披露をした。運動会や学習発表会で発表するダンス動画を見ながら児童同士で練習をした。

## ②おやつについて

- ・アレルギー等を確認し配慮する、補助食として満足度の高いおやつを提供する。

→児童のアレルギー状況を確認しおやつを提供した、給食センターに手作りおやつを注文し提供したがメニューにより残食が多いことから児童に好きなメニューを聞き取りできるだけ対応できるように栄養士と調整を図た。

- ・児童が植え付けと収穫に関わった野菜や果物をおやつに提供し食育への関心を高める

→11月に植え付けをしたじゃがいもを2月に収穫し、学童クラブでおやつや、カレー作りを実施した。収穫をしたじゃがいもの皮むきやカット、煮込む工程に児童が関わることで食育への興味や関心を高めることができた。

## ③交流について

- ・同世代や異年齢との交流や遊びを通し、自主性・協調性及び創造性を培う。

→1年生～6年生でチーム編成をしたドッジボールやゲーム遊びでは中・高学年児童が低学年児童にルールを教えたり勉強面でも助言をしたりと異年齢との交流を通して自主性・協調性や創造性を培うことができた。

- ・高齢者と児童がふれあう交流の場を月1回計画、交流を通し「やさしさ・人の気持ちを汲み取る力」を培う。コロナ禍では、リモート交流等可能な交流を検討し実施する。

→コロナ感染状況を確認しながらガラス越しやリモート交流等コロナ状況に鑑みて実施したが、コロナ発症や感染拡大もあり月1回の実施はできず、1年間で5回実施した。

## ④家庭や学校・関係機関との連携について

- ・必要に応じ小学校との報告会を開催し、信頼関係の構築や、情報共有をすることで児童を多角的な視点から支援を行う。

→コロナの影響により学校側から訪問自粛依頼あり実施出来なかった、必要時は教頭先生や担任の先生と送迎時や電話で児童の様子を報告し情報共有や支援方法を検討した。

- ・学童クラブ便り（1回/月）を発行する。ブログを更新し学童の様子を発信する。

→学童クラブ便りは月1回定期発行し、保護者や子ども家庭課に届けた。ブログは1年間で52回更新した、ブログを通し学童クラブの活動状況を発信した。

## ⑤ニーズの把握について

- ・児童や保護者に対して年1回「満足度調査」実施し結果を参考に改善に努める。

→保護者を対象にアンケートを実施した、「満足」との返答が多く意見や要望はなかった。要望や意見がいいやすいアンケート方法の検討が必要。

## (2) 人員の確保及び人材育成

### <目的>

指導員として専門的な知識と意識を持ち、専門性のある支援に努める。

### <内容>

#### ①指導員のスキルの向上について

- ・沖縄市や県が主催する研修に積極的に参加し、専門職としてのスキルアップを図る。受講後は他の指導員と研修の学びや知識を共有する。

→沖縄市主催キャリアアップ研修（年 3 回）と障害児支援研修（年 2 回）に各担当を派遣し専門職の学びや知識を得た、研修後は部内会議で他職員と情報共有を行った。

- ・部署内会議・申し送り等をより充実させ、情報共有やチームワークを強化し、児童一人ひとりの指導がより細やかに行えるように努める。

→日々ノートで申し送りを行い、必要時はその都度情報を伝達することで職員が同じ情報を基に細やかな対応が行えた。

#### ②指導員の育成について

- ・経験値に合った研修計画を策定しステップアップを図り、やりがいを高める。

→経験値により研修計画を策定した、市の研修案内に沿って支援員 3 名が研修に参加をした実務 1 年の補助員に対しては初任者研修（年 2 回）に派遣し初任者としての学びができた。部署内会議を行い指導員の役割等やケース検討を行い、支援員と補助員が同じ意識と知識を持ち、やりがいやステップアップを図る事に努めた。

## (3) 業務改善

### <目的>

- ・業務分担を明確化し常に業務がスムーズに行えるようにする。

### <内容>

#### ①業務分担をする

- ・職員の変動（復職・退職等）に伴い、その都度業務分担を見直した分担表を作成し、業務を明確化する。

→令和 4 年 4 月支援員 1 名の退職と令和 5 年 5 月支援員 1 名の復職（育児休暇後）があり、担当業務を分担した（障がい児担当・おやつ購入・学童だより作成・ブログ担当等）分担表を作成したことで確認がしやすくスムーズに引き継ぐことができた。

## (4) リスクマネジメント

### <目的>

多様な年齢や活動の多い児童が安全に安心した居場所となるようにリスク管理を徹底し事故等がないように取り組む。

### <内容>

#### ①送迎時の安全について

- ・日頃から車両の点検やマニュアルを確認し、安全な送迎に努める。

→車両マニュアルの点検や送迎前に車両をチェックし安全運転に努めた。

#### ②保育環境について

- ・児童が来る前に、毎日クラブ内や裏庭を点検し危険物等の確認をする。

→児童の登園前にはクラブ内の点検を行い安全に活動が行えるようにした。

- ・裏庭の草刈りや整備を定期的に行い事故やけががなく無く安全に屋外遊びを行う。

→在宅職員で裏庭の草刈りを行い安全に遊びができるようにした、裏庭での事故やけがはなかった。

- ・ヒヤリハットが出た時は職員間で早急に協議し、事故に繋がらないようにする。

→ヒヤリハットが出た時点で指導員全員が情報を共有し事故に繋がらないようにした。

#### ③防犯・防災について

- ・法人内の防災訓練への参加や当該クラブの防災・防犯マニュアルに沿った訓練を年 2 回以上実施する。

→法人内の防災訓練は時間調整（児童送迎時間の都合）が出来ずに不参加となったが、学童クラブで防災訓練と防犯（不審者）訓練を各 1 回行った。

- ・警察や学校と連携し不審者等の情報交換や実践的な対処法について確認する。

→小学校からのメーリングや子ども家庭課から F A X やメールで届いた情報を職員間で共有した。

#### ④新型コロナウイルス感染症予防について

- ・指導員が感染症について正しい知識を持ち予防を行う。

→必要に応じて職員間でマニュアルの再確認を行いマニュアルに沿って対策を行った。

- ・児童に感染症予防の指導を行う（マスク着用・手洗い・うがい・三密の回避等）

→児童にマスク着用の促しや、手洗い・消毒の指導を行うと共に車両内や学習・遊びの場所で密にならないように常に声掛けを行った。

- ・クラブ室内・送迎車の換気・消毒を毎日行う。

→室内や送迎車両は常に窓を開け換気を行った、昼食やおやつ学習時は隣席や対面児童とのアクリル板を設置し使用後は消毒を行った。

- ・感染状況や学級閉鎖に関し小学校や沖縄市子ども家庭課と情報共有をする。

→学校で陽性者が出た時や学級閉鎖等について学校から連絡を受けた時は、学童クラブでも早急な対応を行った。土・日・祝祭日の休日の発症についても子ども家庭課と連絡が取れる体制があり、スムーズな対応ができた。

- ・感染症防止マニュアルに沿って、迅速・適切な対応を図る。

→マニュアルを定期的に見直し適切な対応ができた。

(5) 行事・活動等

(行事・イベント内容及び参加人数)

4月	園外活動 沖縄県総合運動公園 (9日)	15名
	園外活動 美東公園 (16日)	15名
	諸見小学校訪問 職員顔合わせ (19日)	1名
	室川小学校訪問 職員顔合わせ (20日)	1名
	園外活動 中城公園 (23日)	17名
	園外活動 諸見里公園 (30日)	14名
5月	園外活動 ミニミニ動物園 (9日)	9名
6月	デイサービス交流 新一年生お披露目会 (28日)	13名
7月	園外活動 美東公園 (9日)	10名
	園外活動 美東公園 (31日)	11名
8月	防災避難訓練 (26日)	32名
10月	園外活動 沖縄県総合運動公園 (1日)	14名
	園外活動 中城公縁 (8日)	12名
	デイサービス交流 ハロウィン (29日)	35名
11月	園外活動 沖縄県総合運動公園 (5日)	13名
	園外活動 中城公園 (19日)	12名
12月	園外活動 沖縄県総合運動公園 (10日)	17名
	デイサービス交流 18番大会 (26日)	35名
	防犯訓練 (不審者訓練) (27日)	30名
1月	デイサービス交流 新年会 (4日)	30名
	園外活動 八重島公園 (18日)	19名
	園外活動 中城公園 (25日)	19名
2月	園外活動 美東公園 (17日)	19名
3月	園外活動 若夏公園 (4日)	16名
	カレーパーティー (25日)	38名
	園外活動 美東公園 (19日)	18名
	デイサービス交流 ダンス披露 (27日)	18名
	園外活動 お別れ遠足 沖縄県立博物館 (30日)	38名

(職員研修、勉強会等)

月	場 所	研修・勉強会名	参加人数
5月26日	学童クラブ(リモート)	初任者研修「放課後児童クラブの目的と役割」	1名
6月26日	学童クラブ(リモート)	キャリアアップ研修「児童クラブのマネジメント①」	2名
7月20日	学童クラブ(リモート)	キャリアアップ研修「子どもの夢を叶えるためのスマホゲームの付き合い方」	2名
9月14日	学童クラブ(リモート)	障がい児研修「子どもの理解における視点とその支援」	2名
11月16日	学童クラブ(リモート)	初任者研修「学童クラブの生活づくりと支援員の役割」	1名
1月24日	学童クラブ(リモート)	キャリアアップ研修「児童クラブのマネジメント②」	2名
2月14日	学童クラブ(リモート)	障害児研修「子どもの理解と保護者支援」	2名

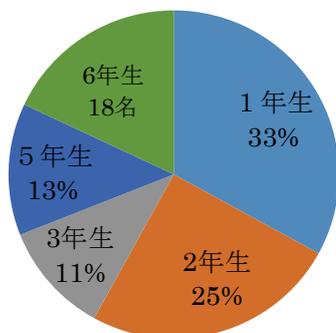
6. 利用状況について

(1) 年間実績(利用日数)

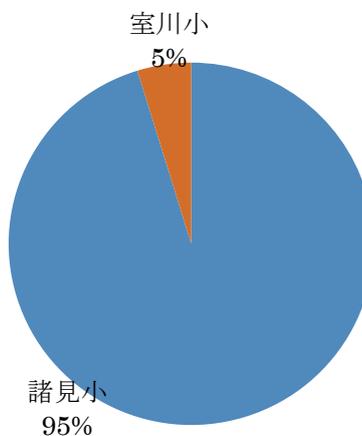
開所 日数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	25日	23日	25日	25日	26日	24日	25日	24日	26日	23日	22日	26日
小1	15	15	15	14	15	15	15	15	15	15	15	15
小2	12	12	12	13	12	11	11	10	10	10	10	10
小3	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
小4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
小6	8	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7
計	46	46	46	46	46	45	45	43	43	43	43	43

(2) 児童の学年別、学校別の状況

学年別



学校別状況



(3) 入・退園状況

	入会	退会				
	小学生	クラブ活動	家庭保育	習い事	その他	計
4月	46	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	1	0	0	1
7月	1	0	0	0	1	1
8月	1	2	0	0	0	2
9月	1	0	0	0	0	0
10月	0	0	2	0	0	2
11月	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0
合計	49	2	3	0	1	6

ケアハウスはいびすかす

## ケアハウスはいびすかす 事業報告

### 1. 総括

職員の相次ぐ退職。超勤の常態化。職員不足によるフロア見守りを強化する為、沖縄市近郊の病院送迎を中止。利用者サービスは、フロアによっては週3回の入浴が実施できない、レク活動が実施できないなど支障があった。利用者の要介護度は平均2.8と重度化する中、各フロアには歩行時のふらつきや立ち上がりに不安がある利用者があり、常時見守りが必要な状況が続いた。7月には施設長・副施設長が退職。介護主任が休職し、指示系統が不安定な状態になった。同月末頃から9月初旬にかけて新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生。利用者36名、職員41名中23名が罹患。入浴や機能訓練を中止し食事を中心とした必要最低限のサービスを実施。県や関係機関と日々情報を共有し、法人の各部署から職員15名、県派遣の応援職員11名が、感染対策を徹底し対応した。医療機関に空床なく罹患患者2名のみ入院となり、他罹患者は施設療養となり3名を看取った。又、職員は定期PCR検査や抗原検査を実施し健康観察を行い、出勤時の平熱確認・マスク着用・手指消毒を徹底し感染予防に努めた。面会は、ガラス越しの面会やアクリル板越しで実施した。

### 2. 運営状況

8月から11月迄の4ヵ月間でコロナに関連する看取りも含め9名の退去があった。その影響で、8月から2月迄の7ヶ月間定員割れが続き、その期間毎月1日付は満床にできず稼働率が下がり収益に影響した。9K勤務を廃止し11Dに変更した事で超勤が減り、且つ安全な見守りを重視し、職員の多い時間帯に午後入浴を促すも、利用者の生活習慣（フロアによっては午前入浴の要望・午後行動が活発）や退職やパートの時間帯に偏りがあり、フロア統一した午後入浴実施には至らなかった。必要な超勤は上司指示を徹底した（超勤報告書の廃止）。結果、上半期に比べると下半期は約3分の1に超勤を抑える事ができた。又、偏食のある利用者に提供している栄養補助食品を個人請求へ切り替えた。利用料の滞納者が1名おり、退去後も身元引受人と同意の上、毎月支払いを継続中。他1名は徴収不能引当金として計上した。職員採用は、ハローワークや職員紹介で17名を採用し、22名が一身上の都合で退職。職員育成は、介護員1名が介護支援専門員を取得。介護員1名が介護福祉士を取得。調理員1名が調理師を取得した。又、調理員1名が定年を迎えた。

### 3. 事業実績

稼働率 93.8%

### 4. 事業状況

(1) 生活の質の向上

①利用者個人の状態を考慮したアクティビティを提供する。

職員不足により体操が主になった。

- ②フロア単位でお茶会やカラオケ大会などを実施する。

主に 4F でカラオケを使用した。お茶会は未実施。

- ③新型コロナの地域蔓延状況を考慮しつつ少人数での屋外活動やミニドライブを行う。

感染予防の観点から未実施。

## (2) 介護サービスの質の向上

- ①「笑顔」「挨拶」等、接遇サービスの基本的な動作を常に意識して実践する。

体調不良による急な欠勤、超勤や職員不足等により、表情には疲労が伺えた。

- ②家族とのコミュニケーションを密にとり「利用者本人にとって、家族にとって」最良なサービスの提供を常に意識する。

面会や受診時等に近況を報告する事ができた。

- ③終末期の選択肢としての「施設における看取り」に対する知識と理解を深め、最善のサービス提供が出来る体制を整える。

看取りに関する勉強会等は未実施。ご家族の理解もあり、訪問看護や訪問診療と連携し 5 名の利用者を看取る事ができた。

- ④入居者の日々の基本的な健康管理はもとより口腔ケアや感染症の専門的な（主治医・歯科医・歯科衛生士）意見を取り入れながら誤嚥性肺炎や感染症の予防を強化する。

協力歯科医の指導の下、口腔ケアを実施できた。

## (3) 彩のある「食生活」の提供

- ①利用者の嗜好調査や摂取状況を確認し日々の食事に反映させる。

嗜好調査は未実施。状態の変化に伴い食事形態の見直しや摂取状況を確認できた。

- ②施設でのイベント時に提供する食事や日々のおやつにも楽しみが持てる献立を企画する。

誕生会のケーキやクリスマス忘年会で趣向を凝らし、利用者に喜ばれた。

## (4) 人材育成

- ①新人職員については、専任の先輩や指導者を個別に付け、介護技術や知識の習得を積極的に進める。また中堅以上の職員は外部の研修も多く参加し現場マネジメントの知識や技術を会得させる。

新人職員は中堅職員がある一定の期間付き添い指導できた。コロナ禍もあり外部研修は不参加。

- ②職員自主研修費助成・職員の自主的な研修又は職務に関連する資格等の取得に対し助成する。またスクーリング等に参加できるよう勤務調整を最優先に行えるようにする。

介護員 1 名が介護支援専門員を取得。介護員 1 名が介護福祉士を取得。調理員 1 名（費

用の助成あり)が調理師を取得した。

- ③ネット配信研修システム等を活用し、階層別研修や介護保険事業所における必須研修を実施する。

超勤や職員不足等により計画的に取り組めなかった。

#### (5) 施設整備

- ①居室水回りは現在のセンサー式から手動式に暫時入れ替えを行う。

居室の水回りは3か所実施し、他便座の取り換えを2か所実施した。

- ②フロアのワックス清掃を実施する。

目立った汚れなく未実施。

<食事配膳用温冷2台買い替え>

実施。

#### (6) 防災対策

- ①「非常災害時対策計画書」を基に災害発生を想定した訓練を年6回、消防立会いの総合訓練を年2回実施する。

沖縄市消防本部は現在訓練立会いは実施していないとの事で、計画書を提出し受理された後、施設単独で訓練を実施。

- ②消火器・消火栓、非常灯等の災害設備の場所確認、動作確認を月1回行う。

業者による点検を実施。

- ③非常連絡網を整備し、職員の異動や変更があった場合、速やかに更新し災害発生時に遅延のない連絡を行えるようにする。

職員不の入れ替えが頻繁にあり未実施。

- ④BCP(災害発生時における業務継続計画)の策定

策定中。

#### (7) 新型コロナウイルス対策

- ①職員の健康管理を行う。出勤時の手指消毒及び検温の徹底。体調不良を認める場合、早退及び在宅での療養。

出勤時に平熱確認や手指消毒に取り組めた。体調不良者は早期に退社させた。

- ②施設内の衛生強化。手すり、テーブル等日常的に触れる箇所の随時の消毒。居室・ホールはこまめに喚起を行う。

手すりやテーブル等日常的に触れる箇所を随時消毒できた。

- ③協力医療機関医師や行政の助言を受けながら家族に事情を理解してもらい面会制限を継続し、地域の流行状況に応じた面会制限の解除(一部解除)を随時検討する。

令和5年3月7日沖縄県対処方針に基づき、面会制限の緩和を検討した。

④行政の指示に従い、利用者職員とも p c r 検査およびワクチン接種を行う。

定期 PCR 検査や抗原検査を実施できた。一部の利用者は 5 回目のワクチン接種を実施できた。

⑤BCP（感染拡大時における業務継続計画）の策定策定中。

(8) 各種委員会

月 日	場 所	会議・勉強会	参加人数
4月1日	はいびすかす	褥瘡委員会	3名
4月4日	はいびすかす	感染委員会	3名
5月9日	はいびすかす	褥瘡委員会	4名
5月16日	はいびすかす	感染委員会	4名
6月13日	はいびすかす	感染委員会	5名
6月14日	はいびすかす	褥瘡委員会	4名
6月22日	はいびすかす	身体拘束適正化検討委員会	4名
9月9日	はいびすかす	給食委員会	6名
9月12日	はいびすかす	感染委員会	11名
9月20日	はいびすかす	身体拘束適正化検討委員会	9名
9月20日	はいびすかす	入居検討委員会	5名
9月27日	はいびすかす	入居検討委員会	5名
10月18日	はいびすかす	研修委員会	4名
10月24日	はいびすかす	給食委員会	4名
10月27日	はいびすかす	入居検討委員会	7名
11月18日	はいびすかす	入居検討委員会	6名
11月18日	はいびすかす	感染委員会	9名
12月6日	はいびすかす	入居検討委員会	6名
12月16日	はいびすかす	身体拘束適正化検討委員会	8名
12月27日	はいびすかす	入居検討委員会	6名
1月27日	はいびすかす	入居検討委員会	6名
2月27日	はいびすかす	身体拘束適正化検討委員会	7名
3月30日	はいびすかす	防災委員会	4名

その他

入退去状況

(単位：人)

	入 居			退 去				
	在宅	施設	計	死亡	医療機関	他施設	居宅	計
4月	0	0	0	1	0	0	0	1
5月	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	1	1	2	0	1	0	3
9月	1	1	2	2	0	0	0	2
10月	0	1	1	1	0	0	0	1
11月	2	0	2	1	2	0	0	3
12月	1	0	1	0	1	0	0	1
1月	2	0	2	0	0	0	0	0
2月	1	0	1	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	7	3	10	7	3	1	0	11

入居者の性別、年齢別、要介護度別の状況

(単位：人)

令和4年度	自立		要支援 1		要支援 2		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
65～69歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75～79歳	0	0	0	1	0	0	0	1	1
80～84歳	0	0	0	0	0	1	0	1	1
85～89歳	0	0	0	0	0	1	0	1	1
90～94歳	0	0	0	0	1	0	1	0	1
95～99歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	1	1	2	1	3	4
平均年齢	0	0	0	79	93	84	93	82	85

(単位：人)

令和4年度	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
65～69歳	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	1	2
70～74歳	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	2	3
75～79歳	3	0	0	0	0	1	0	1	0	0	3	2	5
80～84歳	1	1	1	2	0	3	1	0	1	0	4	6	10
85～89歳	0	2	0	0	0	1	1	0	1	0	2	3	5
90～94歳	0	0	0	5	1	1	0	5	0	1	1	12	13
95～99歳	0	0	0	0	0	2	1	4	0	0	1	6	7
100歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
計	4	3	2	7	1	10	4	11	2	2	13	33	46
平均年齢	79	86	76	91	90	83	85	91	85	99	82	88	87

- ・最大年齢 108 歳、最小年齢 68 歳
- ・平均年齢：男性 83 歳、女性 88 歳、計 86 歳
- ・平均介護度：2.8

#### 会議・勉強会

月 日	場 所	会議・勉強会	参加人数
4月1日	はいびすかす	勉強会・介助について～介助の基本、注意点～	2名
4月13日	はいびすかす	2階フロア会議	6名
5月27日	はいびすかす	勉強会・介助について～介助の基本・注意点～	2名
9月1日	はいびすかす	主任会議	4名
9月20日	はいびすかす	勉強会・身体拘束について～身体拘束ゼロに向けて～	9名
9月25日	はいびすかす	3階フロア会議	5名
10月4日	はいびすかす	主任会議	3名
10月13日	はいびすかす	4階フロア会議	5名

1月9日	はいびすかす	主任会議	4名
1月25日	はいびすかす	4階フロア会議	6名
2月14日	はいびすかす	4階フロア会議	6名
3月24日	はいびすかす	主任会議	4名

#### 研修

8月5日～ 9月16日	オンライン	令和4年度沖縄県介護支援専門員「専門研修課程Ⅱ」	1名
11月25日	はいびすかす	高齢者施設における新型コロナウイルス感染対策研修	7名
1月16日	オンライン	令和4年度 九社連老人福祉施設協議会 軽費・ケアハウス部会セミナー	1名
2月13日	P's SQUARE	令和4年度 社会福祉施設等における災害時業務継続計画（BCP）策定推進研修会	1名

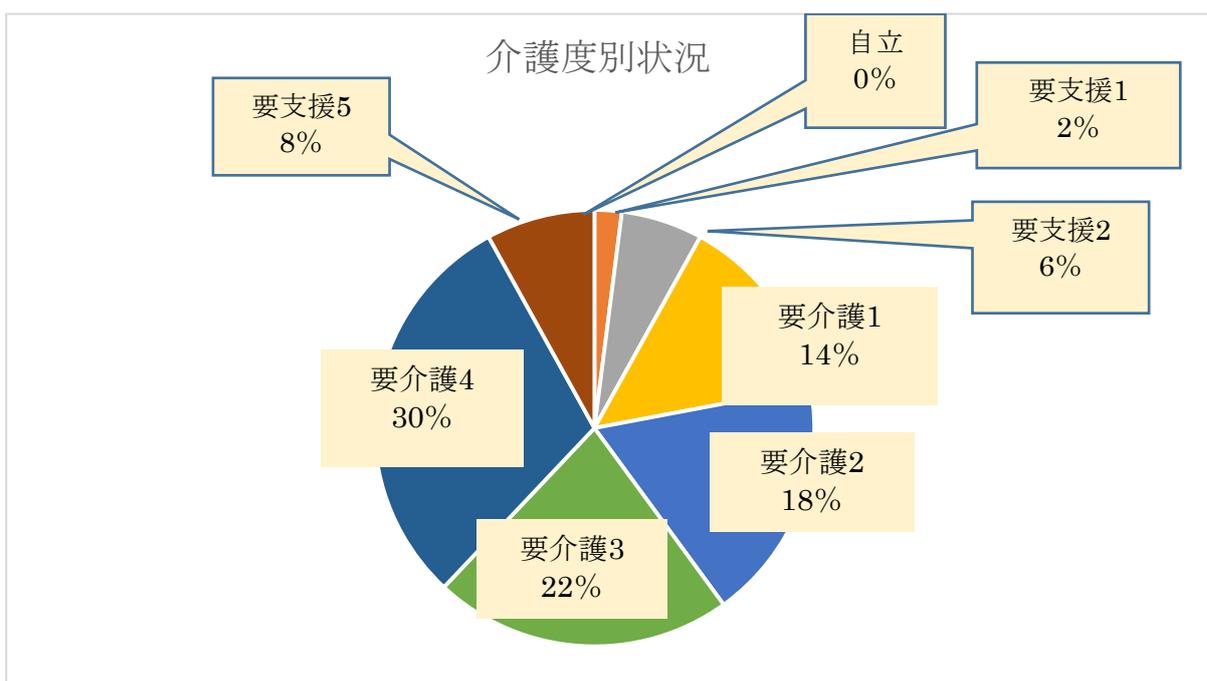
#### 行事实施状況

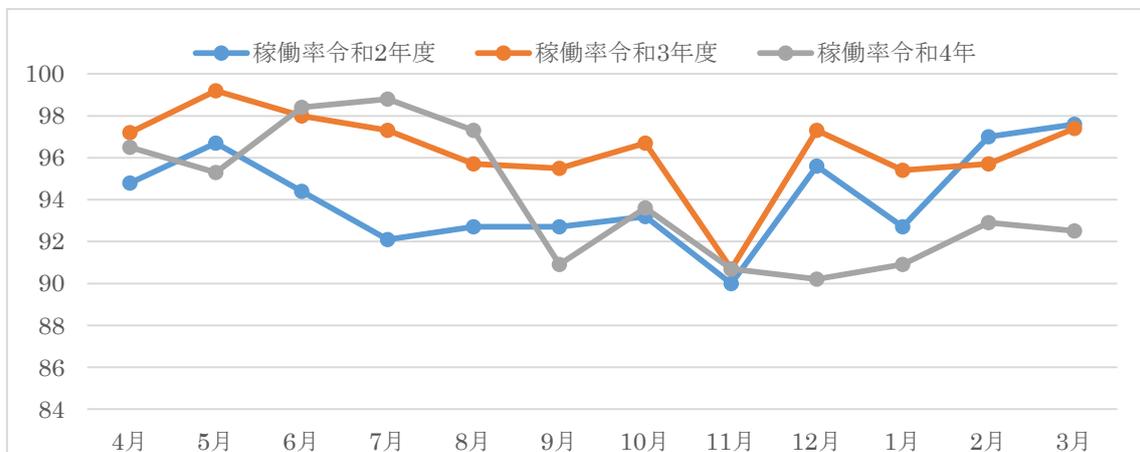
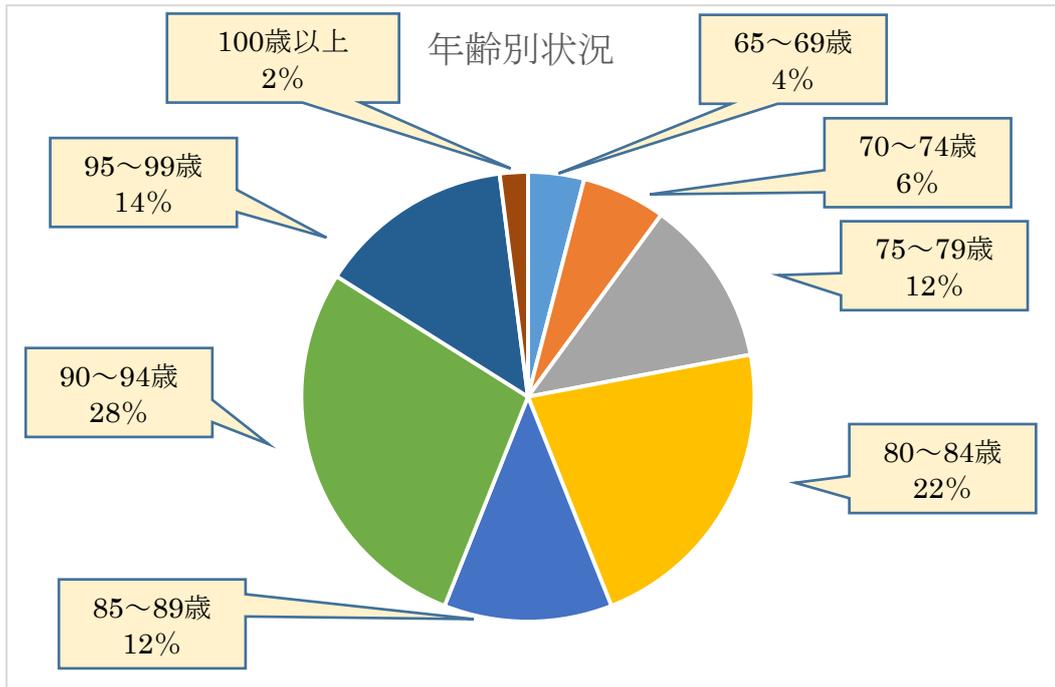
月	行事・イベント名	参加人数
4月	第13回沖縄市長選挙不在者投票（21日）	7名
5月	おやつ会（5日）	13人
	母の日会（6日）	45人
	ミニシアター（17日）	9人
6月	ミニシアター（13日）	15人
	父の日会（17日）	49人
7月	七夕会（7日）	10人
	第26回参議院議員選挙不在者投票（7日）	9人
8月	誕生会（26日）	2人
9月	県知事選挙第13回沖縄市議会議員選挙不在者投票（8日）	7人
	散髪（10日）	14人
	散髪（16日）	15人
	散髪（17日）	13人
	敬老会（22日）	2階15人

		3階 16人 4階 14人
10月	運動会 (26日)	43人
	誕生会 (28日)	12人
11月	散髪 (23日)	13人
	散髪 (24日)	12人
	運動会 (26日)	43人
12月	クリスマス忘年会 (23日)	43人
1月	散髪 (25日)	11人
	散髪 (26日)	9人
	防災訓練 (31日)	
2月	散髪 (22日)	16人
3月	散髪 (28日)	14人
	防災訓練 (30日)	

#### レク活動

クラブ名	回数	参加人数 (1回あたり)
ミニシアター	2	17人





ケアハウスていんさぐぬ花

## ケアハウスていんさぐぬ花 事業報告

### 1. 総括

利用者サービスは、日々の体操やレク活動、口腔ケア、入浴の実施で身体の清潔の保持に努めた。インフルエンザの感染はなかった。新型コロナウイルス感染者が利用者 23 名、入院先での 1 名感染があった。令和 5 年 1 月 13 日～2 月 18 日の期間、施設内コロナ感染症のクラスターとなり、法人・行政機関及び医療機関等からの助言指示、緊急時の入院調整等あり、利用者 23 名コロナ陽性の為、隔離療養となった。職員 7 名陽性、他職員にて超勤対応が生じた。PCR 検査及び抗原検査を実施し健康観察を行った。関係機関と連携し情報の共有及び備蓄の確保。標準感染予防策を周知し感染予防に努めた。面会制限中は、ガラス越し面会やビデオ通話(県内外)、緩和された後、1 階リハビリ室での面会で対応できた。ご家族に誕生会等の写真を送付し、利用者や家族の心身の安定を図った。各医療機関医師と連携し、3 名の看取りに取り組む事ができた。

### 2. 運営状況

毎月 1 日付け定員 50 名（内 2 名は自立）は維持できた。入退去相談は、一人暮らしが困難な方やご家族で介護する事が困難な方などを優先に入居に繋げた。又、入院し継続して治療が必要で退院の目途がつかない利用者や、法人施設及び他施設を希望されている利用者については、各関係機関と連携し円滑な退去に努めた。入院中の医療機関等でコロナクラスターがあり入居調整が遅れる状況もあった。ご家族の希望にて 3 名の利用者が介護老人福祉施設緑樹苑に転居した。心身の変化は早期発見し、食事形態の見直しや居室にセンサーを設置するなどリスクの軽減に努めた。又、体調不良者については、ご家族の協力を得ながら必要に応じ早期受診を促し状態の悪化を防ぐ事に努めた。上半期は基礎疾患や検査等の症状で入院が相次ぎ稼働率は 96.3%。下半期は基礎疾患や骨折入院等及びコロナ陽性者の入院があり 95.7%となった。1 名の利用者が骨折入院の為、損害補償対応した。

地域高齢者サロンは中止。地域の草刈り作業等の地域貢献活動は、1 回の実施となった。

### 3. 事業実績

稼働率は 95.98%（目標 97.5%。前年度実績 98.18%）

### 4. 事業状況

#### (1) 利用者サービス

##### ①機能訓練とレク活動

身体機能維持の為、個別機能訓練計画に基づいた訓練や日々体操を中心とした集団活動及びトランプなどの個別活動を実施する。又、4F を活用したスカイガーデンの実施や季節行事の開催、地域行事への参加で心身のリフレッシュを図る。

結果：機能訓練員による訓練では個人に合ったプログラムを実施しマッサージ器具等導入

しリラクゼーションも図った。体操・レク活動では、平均 13 名の利用者が活動に参加し、パズルなど個別の脳トレや、少人数でのトランプ等、日々活動されていた。季節行事等は、各フロアでの開催となりましたが、ゆったりと参加できるよう工夫ができた。コロナ禍の為、スカイガーデン及び地域行事等は中止とした。

## ②ICT の活用

タブレット端末で記録の充実を図る。状態の変化には、人感センサーや介護ロボット等を活用し事故防止を図る。結果：業者による説明会も実施され、記録及びレク活動、勉強会・苑内研修でも活用された。人感センサーや、介護ロボット(眠りスキャン)等活用し利用者の状態把握、多職種連携し情報共有できた。

※ヒヤリハット・22 件、転倒 49 件(1 件損害補償)、転落 2 件、尻もち・27 件、ずれ落ち・6 件、意識消失・1 件、剥離・9 件、挟まり・1 件、誤薬 2 件。

## ③衛生の保持

入浴や清拭等、口腔ケアの実施。歯科衛生士を講師に招き口腔ケアの指導を仰ぎ、誤嚥性肺炎防止を図る。

結果：週 3 回の入浴実施にて清潔が保たれ、皮膚の状態把握及び、皮膚症状などある場合は受診し悪化を防いだ。訪問歯科診療及び、歯科衛生士による定期的な訪問にて口腔衛生が保たれた。吸引器等も活用し、個別の対応も実施した。医師や歯科衛生士からの助言、相談等、職員へ肺炎予防などについて口腔衛生の重要性を指導なさり職員の意識向上へつながった。歯科衛生士による研修は未実施。

## ④救急搬送と看取り介護

重篤な状態は早期発見し適切な応急処置（心肺蘇生法・AED の活用等）を施し、早期受診し状態が悪化しないように努める。看取り介護については、利用者やご家族と十分話し合い、訪問診療や訪問看護と連携して取り組み、人生の最終段階を静かに見守る。

結果：緊急時の対応について、勉強会にて知識を深め、実際の事例を振り返ることで職員同士の連携及び、関係機関との敏速な情報伝達ができるよう周知した。看取り介護では、担当医師及び訪問看護師より指示・助言等あり、ご家族への状況報告を密に最期まで職員連携にてサポートできた。3 名の看取りを行った。

## (2) 新型コロナウイルス等の感染対策

①感染対策マニュアルに基づき、マスクやフェイスシールド・ガウン着用・アルコールによる手指消毒・テーブルやエレベーター等の消毒、換気を実施。

結果：標準感染予防策及び、ガウンテクニック等を実施し周知を図り、施設内の消毒・換気等実施し感染予防しましたが、令和 5 年 1 月初旬から 2 月中旬までの期間コロナクラス

ターとなる。法人・県・医療関係機関等の援助あり収束することができた。利用者の体調の変化に十分注意しながら日々の経過を記録し、主治医へ状況報告できた。

②出勤前、自宅で平熱を確認。出勤時も平熱を確認しマスク等を着用し就業する。

結果：職員は勤務中2回の検温を実施し健康状態の把握と、定期的なPCR検査及び抗原検査を実施できた。

③来訪者届の記載及び平熱等確認。

結果：来訪者届の記載及び平熱等確認し記録できた。

④利用者及び職員の健康診断の実施。

結果：利用者及び職員の健康診断が実施できた。

⑤行政と連携しPCR検査等や新型コロナウイルスワクチン予防接種の実施。

結果：利用者は、医療機関巡回にてコロナワクチン接種(4回目)できた。

※5回目は、コロナクラスターの為、未接種。

※コロナ感染症が発症した際、沖縄県中部保健所・健康推進班の指導指示にて、PCR検査実施。

⑥インフルエンザ予防接種の実施。

結果：インフルエンザ予防接種が実施できた。(利用者及び、職員)

⑦感染予防具備蓄の確保。

結果：感染予防具備蓄確保できたが、コロナクラスター時は、法人各施設の感染予防具等を借用し対応できた。

⑧感染症対策委員会で、感染予防の基礎知識を学ぶ。

結果：標準感染予防策、食中毒の知識、介護現場の衛生管理について基礎知識を学び周知できた。

⑨沖縄県が蔓延防止等を宣言した場合は面会を制限し、電話やビデオ通話、1F事務所前でガラス越しもしくはアクリル板越しでの面会を実施する。

結果：1階リハビリ室にて月曜日から土曜日の午後14時から16時の間、予約制にて家族様にご利用者と面会できた。コロナ禍の状況により、ご家族様へビデオ通話(県内外)やガラス越しの面会、日々の活動写真などをご家族へ送付し、情報の共有に努めた。

⑩感染症対応事業継続計画（感染症発生時及び拡大時（クラスター）における）BCP の策定及び、訓練の実施。

結果：感染症対応事業継続計画は作成中。 訓練等、未実施。 ※苑内研修では、標準感染予防策、食中毒の知識、介護現場の衛生管理について周知した。

### （３）防災対策

①月 1 回の防災訓練（DVD 視聴を含む）を実施。

結果：月 1 回の訓練は、消防訓練の動画をみながら実施することが多かった。

②年 2 回の沖縄市消防本部立ち合いの防災訓練を実施。

結果：年 2 回の消防立会訓練はコロナ禍の為、施設のみでの訓練を実施とあり、立ち合いは未実施。

③食料備蓄 3 日分の確保。

結果：食料備蓄 3 日分確保済み。

④地域防災訓練への参加。

結果：コロナ禍の為、地域防災訓練への参加は未実施。

⑤自然災害事業継続計画（地震、台風、津波、水害、火災等災害発生時における）BCP の策定及び、訓練の実施。

結果：自然災害事業継続計画は作成中。 訓練等、未実施。 ※勉強会では、消防設備等の管理について図上訓練を実施した。

### （４）人材育成と採用

サービスの質の向上を目指し、以下の研修等を実施する。

①施設内研修及び勉強会の実施。

施設内研修：第 2 火曜日

勉強会：第 2 金曜日

内容：身体拘束・虐待・権利擁護・感染症予防・事故防止・防災・認知症・異常の早期発見・看取り・言葉の影響・オムツ装着・消防機器の取扱い・リフト車取扱い等）。

結果：結果：勉強会及び苑内研修がオンライン動画活用し実施できた。勉強会では 5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）を周知することで、業務の効率向上、ミス、事故防止、スペースの有効活用を理解することで組織の活性化を図った。苑内研修では、看取り介護について最期の時間をどのように過ごしたいのか、利用者の置かれている状況やその方がどうしたいと考えているのか、ご家族はどう考えているのかという事の理解や、死を直前にしたケアの

ポイントについて学んだ。

利用者の人権と尊厳、高齢者支援を行う対人援助職の倫理については、その人らしさを大切にすることで尊厳を保ち快適に清潔に安全に生活が営まれるよう、職員の柔軟な対応、協力するチームワークがより良いサービス体制を確保するということを学んだ。又、認知症高齢者とのコミュニケーションでは、受容・傾聴する、寄り添う、共感することなど、その人に合った声かけの重要性を学び、ユマニチュード、バリデーションについても知識を深めた。研修資料等を職員へ回覧し情報を共有することで意識向上を図った。

サービスの質や気づき、言葉遣い等が重要と理解することができた。不適切なケアの背景等ないか、虐待に繋がらないよう職員同士で注意・確認し情報共有することができた。

職員のコミュニケーションと情報の共有を目的に朝礼を実施。緑樹会の経営理念を復唱することで意識を高め、『笑顔、あいさつ、思いやり』と求める職員像に近づけるよう周知した。多職種の職員が夜間帯の利用者の状況や本日の面会者及び病院受診者などを把握し連携を図った。

#### ②本部研修への参加

新人研修・中堅職員研修・管理職研修等へ参加。

結果：本部研修への参加はなかった。

#### ③介護福祉士実務者研修等、費用を助成する。

結果：介護福祉士実務者研修等、費用の助成はなかった。

#### ④施設外研修への参加

沖縄県社会福祉協議会や全国老人福祉施設研究会議、沖縄県や沖縄市等が主催する研修へ参加。

結果：施設外研修への参加はなかった。

#### ⑤ハローワークの活用及び職員紹介等で雇用を図る。又、必要な時間帯のパート採用で見守りが充実した利用者サービスを提供する。

結果：雇用は常勤5名(介護員)、契約1名(介護員)を採用できた。

常勤5名(介護員、調理員)とパート2名(介護員)退職となった。

定年退職後再雇用1名(調理員)。

職員の人員不足や欠勤等を補う為超勤が多くなり、業務内容を見直す事は出来なかった。

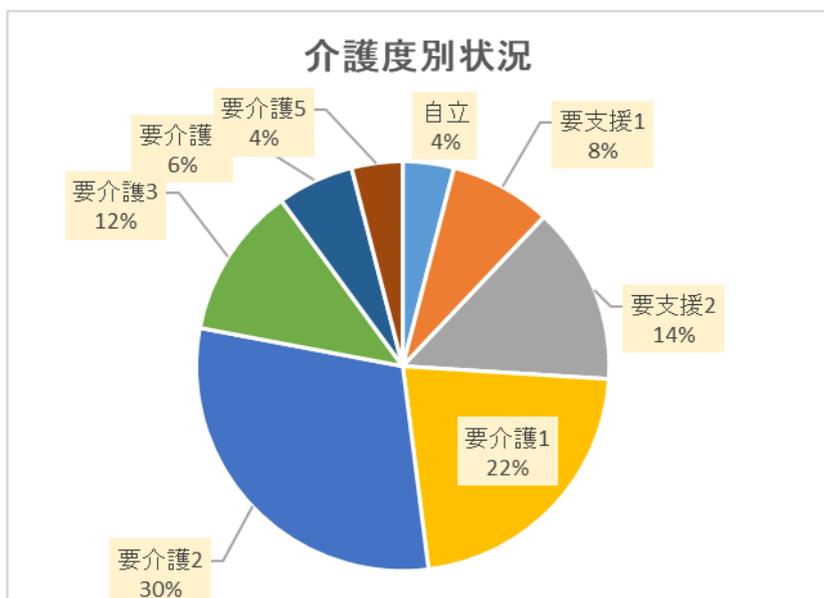
### (5) 設備管理、備品及び環境の整備

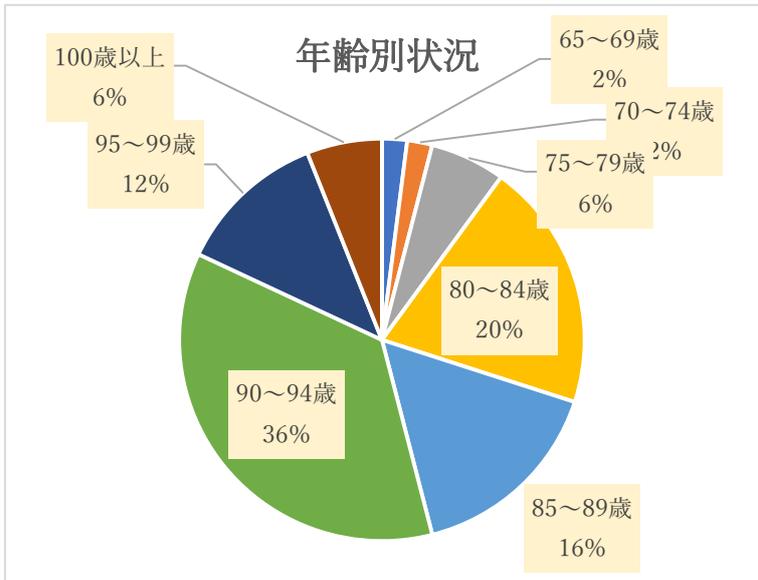
①設備の定期点検や草刈り等を実施。

結果：専門業者が、受水槽・電力・エレベーター・自動ドア・消防機器、建物調査等の設備点検を実施し安全管理に努めた。

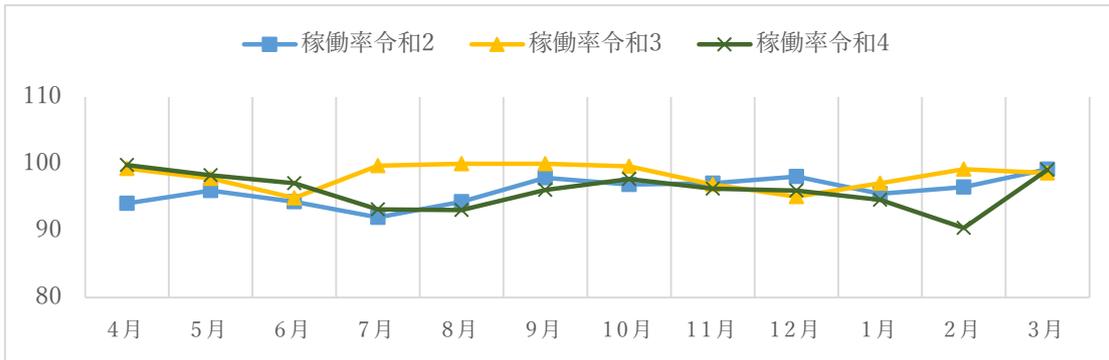
#### 年間実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
入居	50名						
入院	1名	2名	2名	4名	5名	2名	3名
稼働率	99.8%	98.3%	97.1%	93.2%	93.1%	96.1%	97.7%
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
入居	50名	50名	50名	50名	50名	300	
入院	3名	2名	9名	8名	1名	42名	
稼働率	96.3%	96.0%	94.6%	90.4%	99.1%	95.9%	





月間利用入居実績前年度比較



入退居状況

(単位:人)

	入 居			退 去				
	在宅	施設	計	死亡	医療機 関	他施設	居宅	計
4月	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	1	0	0
6月	2	0	2	0	0	0	0	3
7月	3	0	3	0	1	0	0	2
8月	2	0	2	0	1	0	0	2
9月	2	0	2	0	0	0	0	2
10月	0	0	0	0	0	0	0	0

11月	2	0	2	1	0	0	0	2
12月	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	2	0	2	1	0	0	0	3
2月	2	0	2	1	0	0	0	1
3月	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	15	0	15	3	3	1	0	15

入居者の性別、年齢別、要介護度別の状況

(単位:人)

令和2年度	自立		要支援1		要支援2		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
65～69歳	0	0	0	0	1	0	1	0	1
70～74歳	0	0	1	0	0	0	1	0	1
75～79歳	0	0	0	0	1	0	1	0	1
80～84歳	1	1	0	1	0	0	1	2	3
85～89歳	0	0	0	0	2	0	2	0	2
90～94歳	0	0	0	2	0	1	0	3	3
95～99歳	0	0	0	0	0	2	0	2	2
100歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	1	1	3	4	3	6	8	13
平均年齢	82	81	73	87	79	93	78	87	83

(単位:人)

令和2年度	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
65～69歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75～79歳	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2
80～84歳	0	4	1	2	0	0	0	0	0	1	1	7	8
85～89歳	0	3	0	1	0	1	0	1	0	0	0	6	6
90～94歳	1	2	1	4	0	3	0	2	1	1	3	11	15

95～99 歳	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	4	4
100 歳以上	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	2
計	1	10	3	11	0	6	0	3	1	2	5	32	37
平均年齢	90	88	84	90	0	94	0	91	93	87	89	92	90

- ・最大年齢 100 歳、最小年齢 68 歳
- ・平均年齢：男性 89 歳、女性 92 歳、計 90.5 歳
- ・平均介護度：1.8

#### 会議・勉強会

月	場 所	会議・勉強会	参加人数
4 月 6 日	ていんさぐぬ花	主任会議	4 名
4 月 7 日	ていんさぐぬ花	施設内会議	名
4 月 8 日	ていんさぐぬ花	勉強会・5S、防災(図上訓練)について	6 名
4 月 8 日	ていんさぐぬ花	苑内研修、利用者の人権と尊厳、高齢者支援を行う対人援助職の倫理について	8 名
4 月 22 日	ていんさぐぬ花	3 階フロア会議	7 名
5 月 3 日	ていんさぐぬ花	主任会議	4 名
5 月 17 日	ていんさぐぬ花	施設内会議	10 名
5 月 20 日	ていんさぐぬ花	2 階フロア会議	5 名
5 月 27 日	ていんさぐぬ花	3 階フロア会議	7 名
5 月 30 日	ていんさぐぬ花	苑内研修・標準感染予防策、食中毒の知識、介護現場の衛生管理	8 名
5 月 31 日	ていんさぐぬ花	勉強会・緊急時の対応、看取り(死を直前にしたケアのポイント)	6 名
6 月 3 日	ていんさぐぬ花	主任会議	4 名
6 月 10 日	ていんさぐぬ花	勉強会・介護従事者に求められる気づきについて	7 名
6 月 14 日	ていんさぐぬ花	苑内研修・身体拘束防止の具体策、身体拘束を行ってはいけない理由	8 名
6 月 17 日	ていんさぐぬ花	2 階フロア会議	6 名
6 月 24 日	ていんさぐぬ花	3 階フロア会議	6 名
7 月 1 日	ていんさぐぬ花	主任会議	4 名
7 月 4 日	ていんさぐぬ花	厨房会議	6 名
7 月 8 日	ていんさぐぬ花	勉強会・体温の異常と熱中症、『痛みへの対応』	8 名

		について	
7月12日	ていんさぐぬ花	苑内研修・職員の健康管理、遊びりテーションとは	6名
8月19日	ていんさぐぬ花	2階フロア会議	3名
9月2日	ていんさぐぬ花	主任会議	3名
9月15日	ていんさぐぬ花	県監査	
9月26日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	7名
9月28日	ていんさぐぬ花	2階フロア会議	5名
10月3日	ていんさぐぬ花	主任会議	3名
10月14日	ていんさぐぬ花	勉強会・認知症高齢者とのコミュニケーション、ユマニチュード、バリテーションについて	6名
10月21日	ていんさぐぬ花	2階フロア会議	5名
10月28日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	7名
11月4日	ていんさぐぬ花	主任会議	3名
11月18日	ていんさぐぬ花	2階フロア会議	4名
12月2日	ていんさぐぬ花	主任会議	4名
12月6日	ていんさぐぬ花	臨時主任会議	4名
12月9日	ていんさぐぬ花	勉強会・緊急時の対応について	7名
1月6日	ていんさぐぬ花	主任会議	3名
2月18日	ていんさぐぬ花	2階フロア会議	4名
2月18日	ていんさぐぬ花	臨時主任会議	3名
2月24日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	6名
3月1日	ていんさぐぬ花	主任会議	3名

#### 研修

月	場 所	研修・勉強会名	参加人数
9月26日	はいびすかす	月次勉強会	1名
10月24日	緑樹苑	月次勉強会	1名
12月26日	緑樹苑	月次勉強会	1名

#### 安全衛生委員会

月	場 所	会議、研修名	参加人数
4月21日	緑樹苑	労災について	1名
10月20日	緑樹苑	職員健康管理、腰痛予防	1名
11月17日	緑樹苑	感染症対策、労働災害	1名

12月15日	緑樹苑	メンタルヘルスについて	1名
3月16日	緑樹苑	今年度の活動について	1名

行事実施状況

月	行事・イベント名	参加人数
4月	辞令交付式(1日)	1人
	第13回沖縄市長選挙不在者投票(19日)	10人
	誕生会(21日)	6人
	散髪(27日)	23人
	散髪(28日)	24人
	防災訓練(29日)	27人
5月	施設内消毒(10日)	
	母の日会(13日)	47人
	誕生会(19日)	2人
	防災訓練(31日)	人
6月	父の日祝い会(17日)	45人
	誕生会(23日)	1人
7月	七夕会(7日)	51人
	誕生会(21日)	4人
	散髪(25日)	19人
	散髪(26日)	24人
	防災訓練(28日)	27人
8月	誕生会(18日)	2人
9月	沖縄県知事選挙、第13回沖縄市議会議員選挙不在者投票(8日)	8人
	敬老会(20日)	45人
	誕生会(29日)	4人
10月	運動会(10日)	2階20人、3階23人
	誕生会(20日)	7人
	利用者健康診断	39人
	散髪(26日) 3階	17人
	散髪(26日) 2階	22人
11月	誕生会(17日)	7人
	秋のお茶会(22日)	46人
12月	防災訓練(8日)	人

	誕生会(15日)	4人
	散髪(16日)	19人
	散髪(19日)	18人
	クリスマス忘年会(23日)	45人
1月	新春お茶会(10日)	42人
3月	誕生会(23日)	5人
	定年退職者辞令交付式(31日)	1人

#### レク活動

クラブ名	回数	参加人数(1回当たり)
カラオケ	0	0
歌声	18	13
映写会	147	13
民舞	39	13
ドライブ	0	0
塗り絵	6	12
お茶会	2	40
習字	1	11
輪投げ	3	12
手工芸	6	12
スカッシュボール	1	15
体操	281	13
脳トレ	24	13

#### 5. 各種委員会

月	場 所	会議名	参加人数
5月6日	ていんさぐぬ花	身体的拘束等適正化検討委員会	4名
5月10日	ていんさぐぬ花	行事委員会	3名
5月23日	ていんさぐぬ花	行事委員会	3名
8月17日	ていんさぐぬ花	行事委員会	3名
8月24日	ていんさぐぬ花	身体的拘束等適正化検討委員会	4名

10月3日	ていんさぐぬ花	行事委員会	3名
11月21日	ていんさぐぬ花	行事委員会	6名
11月22日	ていんさぐぬ花	行事委員会	4名
11月22日	ていんさぐぬ花	身体的拘束等適正化検討委員会	5名
12月13日	ていんさぐぬ花	行事委員会	7名
3月30日	ていんさぐぬ花	身体的拘束等適正化検討委員会	3名